

徳島県農工商教育活性化・魅力化方針
（案）

目 次

	頁
方針策定の趣旨	1
第1章 本県農工商教育の現状	2
1 対象となる高校の設置状況	2
2 農業科，工業科，商業科，水産科への進学希望推移	4
3 進路状況	4
第2章 「徳島県農工商教育活性化方針」に基づく取組の成果	7
1 農業教育	7
2 工業教育	8
3 商業教育	9
4 農工商が連携した教育	10
第3章 本県農工商教育を取り巻く新たな課題	12
1 人口減少・少子高齢化に伴う地域経済の縮小及び地域産業の担い手不足への対応 ..	12
2 *5Gで加速する第4次産業革命がもたらす*Society5.0を生き抜くために必要な学び	12
3 *SDGsの達成に貢献する，持続可能な開発のための教育（ESD）の推進	12
4 小・中学生の農工商教育を行っている高校への進学希望を増やすための取組	13
第4章 本県農工商教育の活性化・魅力化に向けた方向性	14
1 グローバル社会に対応でき，地方創生に資する人材の育成	14
2 5Gで加速する第4次産業革命がもたらすSociety5.0に対応できる人材の育成	14
3 SDGsの達成に貢献する，持続可能な社会づくりの担い手の育成	14
4 小・中学生や保護者等に対する農工商教育の効果的な魅力発信	14
第5章 本県農工商教育の活性化・魅力化に向けた取組方策	15
1 本県における人材育成の基本理念	15
2 産業界等が求めるもの	15
3 徳島ならではの農林水産業，工業，商業に関する教育	15
第6章 農工商教育を行う高校が取り組む具体的な活性化・魅力化策	24
用語解説	65
徳島県農工商教育活性化・魅力化協議会委員名簿	68

※巻末の用語解説に掲載している用語には * を付しています。

方針策定の趣旨

平成27年3月に策定した「徳島県農工商教育活性化方針」は、「徳島県教育振興計画第2期」（平成25年3月策定）に基づく個別計画であり、平成27年度から令和元年度までを推進期間として、農工商教育の活性化に向けた方策や、農工商連携による*6次産業化に対応した実践的な教育の必要性を示すとともに、各高校における具体的な取組内容や数値目標を盛り込んでいる。

これに基づいた各校における特色ある取組や、農工商が連携した*6次産業化教育、そして、専門高校の学科再編・再編統合が進められたことなどにより、本県農工商教育の活性化が図られてきた。

一方、*AI、*ビッグデータ、*IoT等の先端技術が高度化して、あらゆる産業や社会生活に取り入れられ、社会の在り方そのものが劇的に変化されると言われるSociety5.0時代の到来や、東京2020オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ2021関西、そして2025年大阪・関西万博の開催によるグローバル化の更なる進展等を見据えて、本県農工商教育が取り組むべき新たな方向性を示す必要がある。

そこで、これまでの取組の成果を踏まえ、新たな課題に的確に対応し、本県農工商教育の更なる活性化と魅力化を図るため、有識者や学校関係者からなる「徳島県農工商教育活性化・魅力化協議会」での協議を経て、「徳島県教育振興計画第3期」（平成30年3月策定）に基づく個別計画として「徳島県農工商教育活性化・魅力化方針」を策定する。

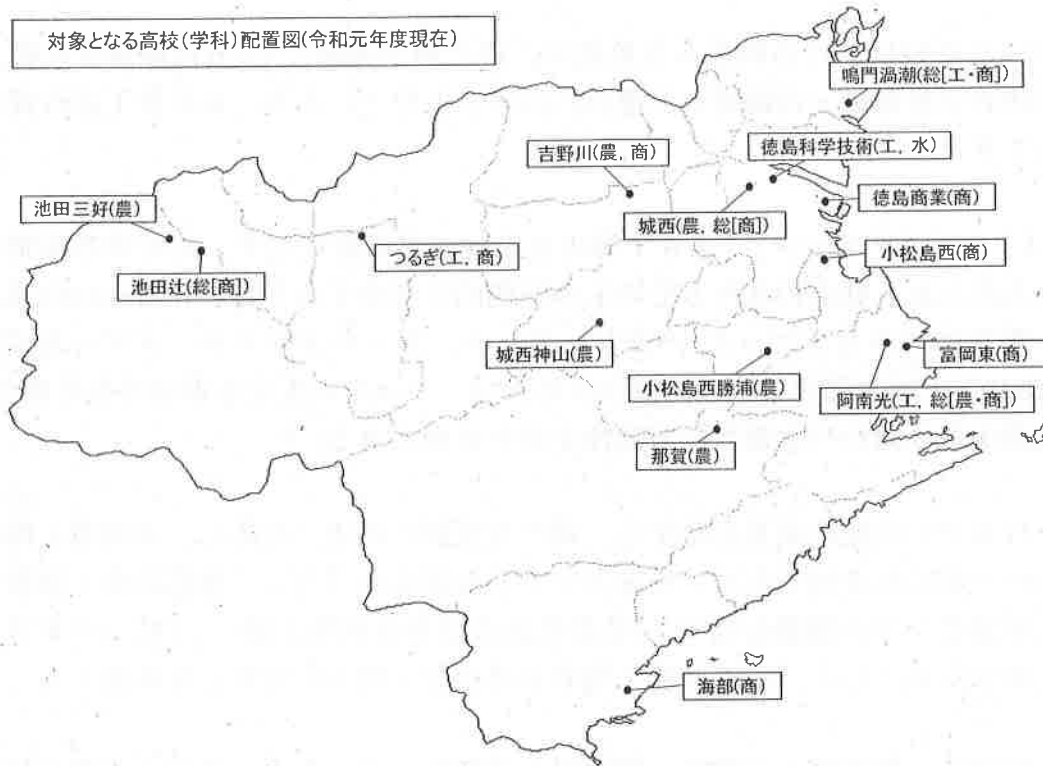
なお、前方針では、農業科、工業科、商業科を対象としていたが、今回の方針では、第1次産業である農林水産業を主体とした、更なる6次産業化教育の推進を掲げるなど、本県の農林水産業、工業、商業に関する教育の活性化・魅力化に向けた方向性を示すものとして、水産科とともに農工商教育を取り入れている総合学科も対象とする。

本方針の推進期間については、令和2年度から令和6年度までの5年間とする。

第1章 本県農工商教育の現状

1 対象となる高校の設置状況

本県において、農林水産業に関する教育を行っているのは、農業科6校、水産科1校、総合学科1校の計8校、工業に関する教育を行っているのは、工業科3校、総合学科1校の計4校、商業に関する教育を行っているのは、商業科6校、総合学科4校の計10校である。



農林水産業に関する教育

大学科名	学校名	小学科名	令和2年度募集定員(名)
農業科	城西高校	生産技術科	20
		植物活用科	25
		食品科学科	25
		アグリビジネス科	25
	城西高校神山校	地域創生類	30
	小松島西高校勝浦校	応用生産科	20
		園芸福祉科	20
那賀高校	森林クリエイト科	20	
吉野川高校	農業科学科	20	
	生物活用科	20	
池田高校三好校	食農科学科	20	
	環境資源科	15	
計			260
水産科	徳島科学技術高校	海洋科学類	10
		海洋技術類	20
計			30
総合学科	阿南光高校	産業創造科	85

工業に関する教育

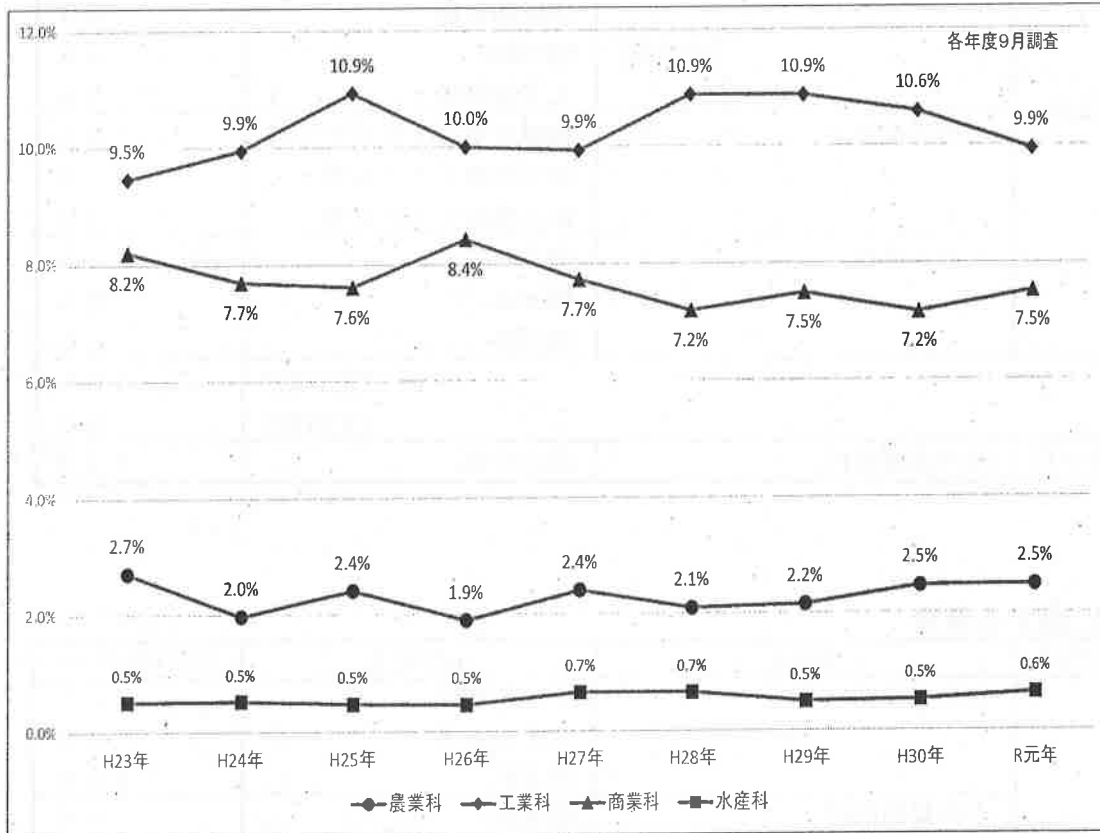
大学科名	学校名	小学科名	令和2年度募集定員(名)
工業科	徳島科学技術高校 (全日制)	総合科学類	60
		機械技術類	70
		電気技術類	60
		建設技術類	80
	(定時制)	機械類	40
		工業技術類	40
	阿南光高校	機械ロボットシステム科	35
		電気情報システム科	30
		都市環境システム科	25
	つるぎ高校	電気科	50
機械科		50	
建設科		25	
計 (全日制)			485
(定時制)			80
総合学科	鳴門渦潮高校	総合学科	140

商業に関する教育

大学科名	学校名	小学科名	令和2年度募集定員(名)	
商業科	徳島商業高校	情報処理科	60	
		会計情報科	55	
		商業科	155	
	小松島西高校	商業科	60	
		富岡東高校	商業科	35
		海部高校	情報ビジネス科	20
		吉野川高校	会計ビジネス科	25
			情報ビジネス科	25
			食ビジネス科	30
	つるぎ高校	商業科	25	
地域ビジネス科		25		
計			515	
総合学科	城西高校	総合学科	85	
	阿南光高校	産業創造科	85	
	鳴門渦潮高校	総合学科	140	
	池田高校辻校	総合学科	55	

2 農業科，工業科，商業科，水産科への進学希望推移

中学生の農業科，工業科，商業科，水産科への進学希望率は，ここ9年間変動があまり見られない。特に，徳島県農工商教育活性化方針の推進期間である平成27年度から令和元年度の間，若干の増減はあるものの，ほぼ横ばいで推移している。これを増やしていくには，小・中学生やその保護者，中学校教員に対する農工商教育への理解を促す取組などをさらに進める必要がある。



3 進路状況

平成30年度については，大学等への進学率が，4学科すべてにおいて，平成26年度よりも増加している。

こうした変化の要因として2つ考えられる。1つ目は，職業に必要とされる知識・技術が高度化する中，高校で身に付けた知識，技術・技能をさらに高め，かつ，より高度な資格取得を目指すため，高等教育機関への進学を目指す生徒が多くなっており，それを支援してきた結果といえる。2つ目は，専門高校の生徒を対象とした入学者選抜枠の設置といった進学機会の拡大が少しずつ図られてきたことが要因であろう。

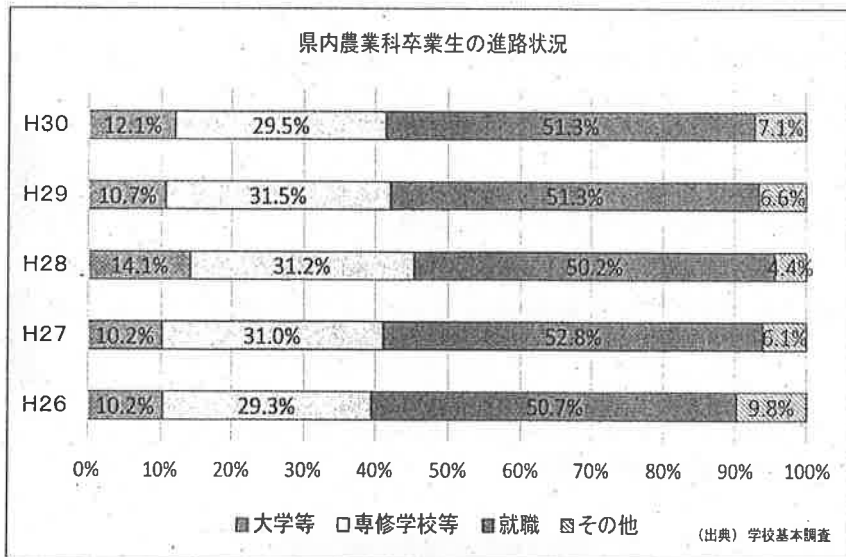
今後，令和2年4月から開始される国の高等教育の修学支援新制度により，進学割合がさらに増加することが予想される。こうしたことから，農工商教育においては，高校教育で完結するのではなく，高等教育への接続を意識した教育をより一層進めていく必要がある。

平成30年度卒業生の就職者状況

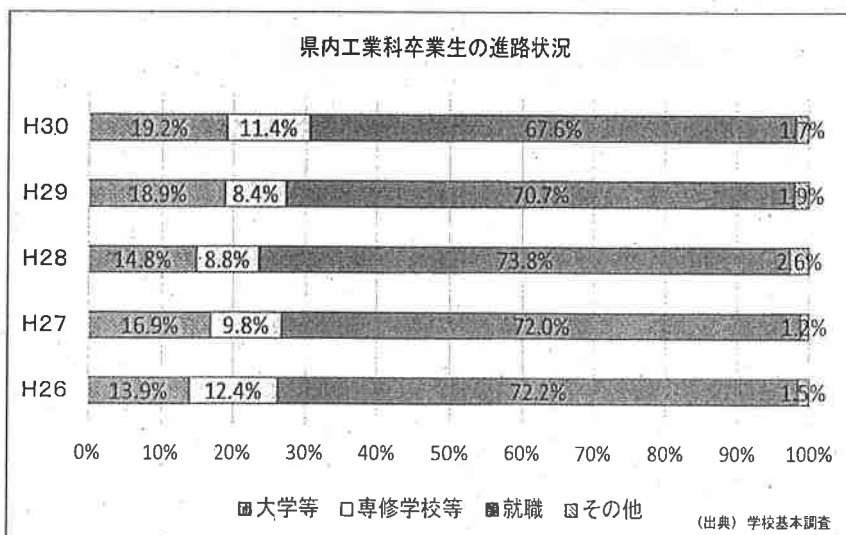
(単位：名)

	農業科	工業科	商業科	水産科
県内就職者数	91	226	208	6
県外就職者数	24	124	59	3
計	115	350	267	9
県内就職者数の割合	79.1%	64.6%	77.9%	66.7%

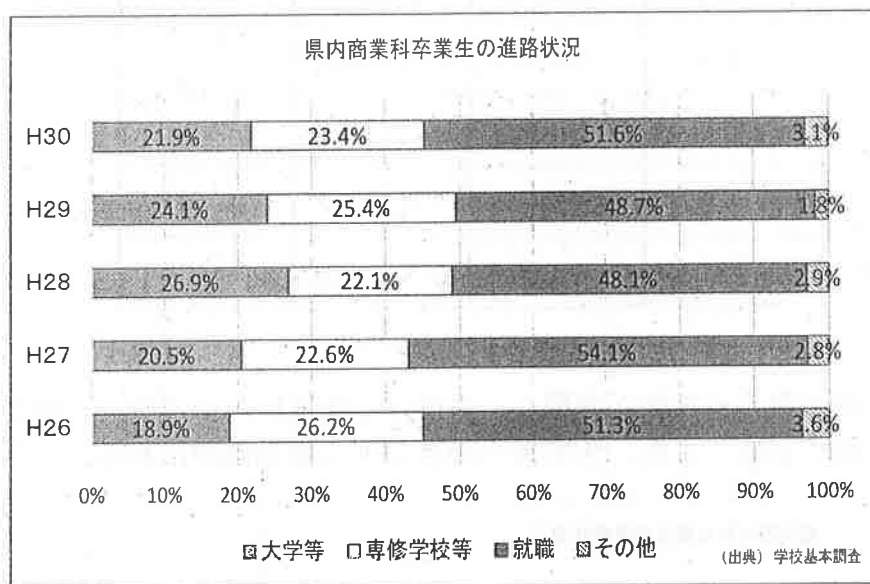
農業科は、例年5割を超える生徒が就職し、平成30年度においては、そのうち79.1%が県内就職である。また、大学等への進学率が増加傾向にある。



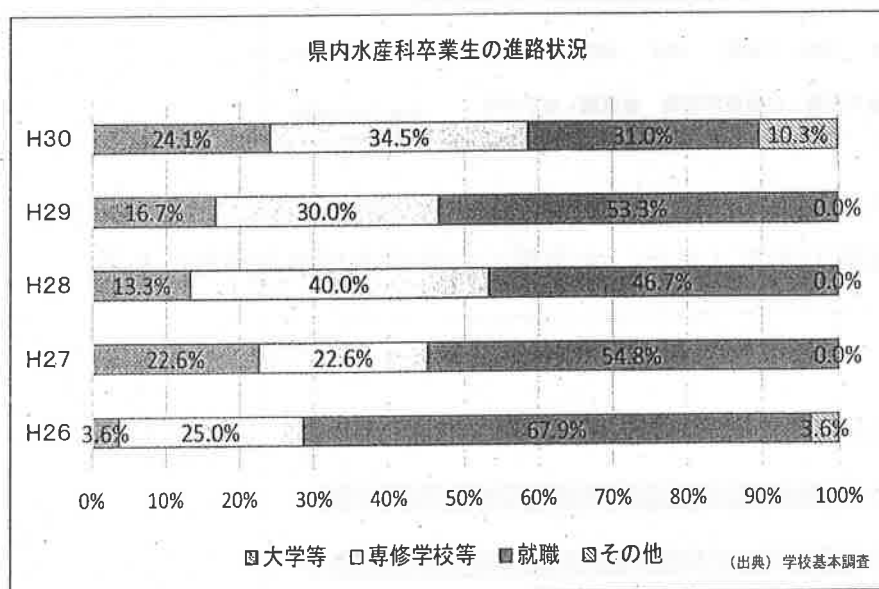
工業科は、例年約7割の生徒が就職し、平成30年度においては、そのうち64.6%が県内就職である。また、大学等への進学率が増加傾向にある。



商業科は、例年約5割の生徒が就職し、平成30年度においては、そのうち77.9%が県内就職である。



水産科は、大学等と専修学校等への進学率が増加傾向にある。平成30年度においては、就職者のうち66.7%が県内就職である。他の学科に比べて、年による変動が大きいのは水産科の卒業生数が少ないことが影響していると考えられる。



第2章 「徳島県農工商教育活性化方針」に基づく取組の成果

農業教育，工業教育，商業教育のそれぞれの活性化に向けて，6つの方策のもとで取り組んできた主な成果は次のとおりである。

1 農業教育

(1) エコロジカル・アグリハイスクールの推進

- 各学校は，環境保全型農業，環境学習，*エシカル消費など，持続可能な社会を目指す学習を幅広く農業教育として実践できた。
- 絶滅危惧種の保護活動や棚田での農業体験活動など，地域の特性を生かした環境教育が継続的に行われ，地域環境の保全に貢献できた。

(2) 勢いのある強い農業教育の推進

- 城西高校を中心校として，学校農業クラブ活動の各競技会等の運営を各学校が担う体制が定着し，活動の活発化が図られた。
- 校内販売所や地域の販売所等を活用した農産物の販売が盛んに行われ，農場生産収入の増額につながった。また，各校で開発されたオリジナル商品の定着が図られた。

(3) 地域貢献，地域連携及び地域に開かれた学校づくりの推進

- 県の各機関や大学，企業，団体等と積極的に連携して，各学校が特色ある活動を展開し，地域の中で活動することによって，地域の活性化に貢献できた。
- 阿波藍や人形浄瑠璃，養蚕に関する取組など，伝統文化の継承が活発に行われ，地域との結びつきが強固となり，地域の教育資源を活用した学習が進展した。

(4) 経営能力，倫理観を持ったスペシャリストの育成

- *GAPの推進や6次産業化を目指した商品開発や販売，PR活動などの学習を通して，信頼され儲かる農業経営の能力を向上させることができた。
- 県内農家や農業法人，地元企業でのインターンシップや就業体験は，コミュニケーション能力の向上など生徒への教育効果も大きく，農業高校のアピールにもつながった。
- 日本農業技術検定，*FFJ検定や各種発表会・競技会のほか，各学科の特色を生かした資格取得に挑戦し，アグリマイスターの認定を受ける生徒を育成することができた。

(5) 国際的視野を備えた担い手の育成

- 海外マーケティング事業や地域の国際交流プロジェクト，海外林業技術研修などに代表生徒が参加し，国際理解を深め，郷土を再認識できた。また，発表会を通じて学習成果を共有し，広めることができた。
- 海外からの学生を迎えて交流活動を行い，農業学習や日本文化を理解してもらう情報発信ができた。

(6) 自然災害による被害の軽減に努める人材の育成

- 防災食や消臭抗菌スプレー製品の開発など，専門性を生かし，災害時に活用できる研究が進められた。
- 防災士の資格取得や地域での防災活動への参加など，地域防災を担う人材の育成が進んだ。
- 耕作放棄地の活用や棚田の保全，森林の整備など，自然災害の防止につながる学習は，生き抜くための知識技術の習得であり，防災意識の向上にもつながった。

2 工業教育

(1) 工業科ネットワークの強化と機能分担

- 工業学会事務局を中心に工業科設置校が連携して、各種コンテスト等の事務局を輪番制にするなど役割分担を明確にし、機能性を高めたことで、工業科ネットワークの強化につながった。
- 工業科設置校の特色ある取組などを積極的に情報発信することにより、工業学会HPへのアクセス数が計画実施前の4.5倍と大幅な増加につながった。

(2) 実践的な*キャリア教育の推進

- 地元企業、徳島県中小企業団体中央会、ロータリークラブ、NPO法人阿南竹林再生会議、地域の自主防災組織との連携が構築でき、短期インターンシップについては、毎年2年生全員が参加し、60%以上の生徒が専門職種で体験できるなど連携事業所数も増加した。
- 資格取得において、第一種電気工事士試験や第三種電気主任技術者試験では目標を少し下回っているが、第二種電気工事士試験ではほぼ目標に達することができた。

(3) グローバル化に対応した教育の推進

- 海外高校生との交流を通して、技術力と語学力の向上が図られた。また、パテントコンテストで受賞するなど、課題解決能力の向上につながった。
- 発表会等の実施回数の増加により主体性やプレゼンテーション能力の向上が図られた。

(4) 大学・公的教育機関・企業等との連携強化による工業教育の充実

- 専門分野の高度な知識や技術を習得する機会を積極的に設け、研究活動への生徒の興味・関心を高め、主体的な取組につながった。
- 地元建築士会と連携し、専門家から技術的な支援を直接受け、建築甲子園では建築士会会長賞、「住みたい家」コンクールでは優良賞を受賞した。

(5) 教員の高度な専門性の確立と指導力の向上

- ものづくりコンテストや国家技能検定の取組において、高度熟練技術者を招聘した技術指導を実施することで、教員の指導力向上につながった。
- コース長等が各種事業を企画・実施することで、中核教員としてのコーディネート力の向上につながった。

(6) 6次産業化の取組による地域連携の推進

- 「阿波藍」に関するものづくりの取組や「ゆこう」を使った商品開発の取組など、農林水産業を学ぶ学科との積極的な連携を通して、産業構造の変化についての認識を深めた。
- 県工業技術センターと連携するなど行政機関と協力し、県産材の杉を使用した製品の研究開発に携わることで、地域資源を活用したものづくりの取組の充実が図られた。

3 商業教育

(1) 中心校の充実と商業科ネットワークの推進

- 徳島商業高校を中心として、各種競技会等を開催するなかで、生徒の知識・技術の向上が図られ、全県的な商業教育が大きく発展した。

(2) 実践的なキャリア教育の推進

- 学校、地元産業界等との連携による各校ならではのグランドデザインの作成・指導が展開され、地域の発展に資する実践的なキャリア教育が推進された。
- 外部講師の積極的な活用により、最先端の知識・技術が身に付くとともに、実践的なキャリア教育が推進された。

(3) グローバル化に対応した教育の推進

- 姉妹校等との国際交流を通じて、外国人と触れ合い、異文化の理解が深まり、グローバルな人材の育成が図られた。
- 英語スピーチコンテストへの参加により、外国語を通じた望ましいコミュニケーション能力と積極性を身に付け、各種国際会合等で英語スピーチを行い、国内外から高い評価を得た。

(4) 産学官連携・高大連携による創造的教育の推進

- 企業を訪問したり、市場調査をしたりすることで、実際のビジネスを知ることができた。
- 高大連携による発展的・専門的な学習により、生徒のビジネスに関する興味・関心が高まるとともに探究活動の進化が図られ、創造的教育が推進された。

(5) 資格取得や実践的教育によるキャリアアップの推進

- 平成27年度には、全商3種目1級取得者が過去最高の126名となった。また、日商簿記検定、基本情報技術者試験などの高度資格合格者も出ている。
- 各競技会で、専門的知識・技術の向上が図られ、4年間でワープロ、珠算電卓、商業研究の各種競技会において、全国大会上位に入賞をするなどの成果をあげた。

(6) 6次産業化の取組による地域連携の推進

- 各種イベントの参加を通して、地域の方々や地元企業の方と交流を深め、6次産業化の取組を知っていただくとともに、地域経済の理解や地域産業の振興に参画する意識が高まった。
- 生産されたみまから唐辛子を使い、地元企業と連携して商品開発に取り組み、「みまからさっくりーふ」を開発した。その他に、「みまからぎゅうっと弁当」、「みまからあげパン」の2つの商品を、徳島ヴォルティスの試合や消費者まつり等のイベントで販売することができた。

以上のような、徳島県農工商教育活性化方針に基づく、本県農工商設置高校による特色ある取組によって、農業教育、工業教育、商業教育のそれぞれの活性化が図られてきた。これまでの取組の成果を踏まえ、今後も地域産業を担う人材を育成するため、社会や産業界の変化に応じた実践的な教育をより一層推進していく必要がある。

4 農工商が連携した教育

- 6次産業化プロデュース事業（平成27年度～）
 - ・徳島県農工商教育活性化方針に基づき、6次産業化をプロデュースする人材を育成するため、学校間連携・生徒間協働活動により、地域資源をテーマに生産・商品開発・加工・販売の一連の流れについて、実践的な取組を行う事業
 - 【県央】テーマ：阿波藍
連携校：城西高校（農）、徳島科学技術高校（工）、徳島商業高校（商）
成果物：藍の洋菓子・和菓子、藍のぎょうざ、藍の行灯
 - 【県南】テーマ：ゆこう
連携校：小松島西高校勝浦校（農）、阿南光高校（農・工）、富岡東高校（商）
成果物：ゆこうマーマレード、ゆこうケーキ、ゆこうどら焼き
 - 【県西】テーマ：アロマオイル
連携校：池田高校三好校（農）、池田高校辻校（商）、つるぎ高校（工・商）
成果物：アロマキャンドル、アロマオイルの香る写真立て、アロマ石けん、アロマスプレー
- 農業・工業・商業が連携した教育に関連する学科再編・再編統合（平成24年度～）
 - ・吉野川高校（平成24年度開校）
「食ビジネス科」を新しく設置し、「農商連携」による地域の食材を活かした商品開発や店舗経営についての教育などを展開
 - ・つるぎ高校（平成26年度開校）
「地域ビジネス科」を新しく設置し、「商工連携」による地域の特産品「みまから」の6次産業化を一層進める教育などを展開
 - ・那賀高校「森林クリエイト科」（平成28年度設置）
森林資源を活かした実践的な森林施業学習と6次産業化に対応した教育を展開
 - ・城西高校「アグリビジネス科」（平成29年度設置）
生産・商品開発・加工・販売の一連の流れを総合的に学習できる6次産業化に対応した教育を展開
 - ・阿南光高校（平成30年度開校）
「産業創造科（総合学科）」を新しく設置し、「工業科」どの併設による専門教育を行う高校として開校、「農工商が一体化した特色ある教育」や「ものづくりを重視した教育」を展開
- ※県、徳島大学、県教育委員会との連携協定に基づき、新野キャンパスを徳島大学のサテライトキャンパスと位置付け、高大連携教育を推進（大学教員1名常駐）
- ・城西高校神山校「地域創生類」（平成31年度設置）
地域産業の振興や地域に貢献できる人材育成を目指し、地域に根ざした造園教育や持続可能な環境保全型農業教育を展開
- 徳島大学生物資源産業学部（平成28年度～）へのキャリアパスの確立
 - ・高校からの推薦入試 I 対象：農業・工業・商業・水産・総合学科
募集人員：8人（一般枠：4人・地域枠：4人）
合格者数：H28年度 5人、H29年度 5人、H30年度 5人
H31年度 4人、R2年度 3人
 - ・農業大学校（専修学校）から編入可能

県教育委員会では、これまで、前方針に基づき、農工商教育において経済社会の様々な情勢の変化に対応した専門的職業人として必要とされる力を身に付け、地域産業の発展に貢献できる人材の育成をするために、学科再編や再編統合、そして6次産業化教育の推進など様々な施策を展開してきた。学科再編では、平成28年度に林業関係学科である那賀高校森林クリエイト科、平成29年度に6次産業化専門学科として城西高校アグリビジネス科を新設、再編統合では、平成30年度に農工商が一体化した専門教育を行う高校として阿南光高校を開校し、農工商教育の活性化を図ってきた。また、6次産業化プロデュース事業では、県下3地域において、農工商教育を行っている学校が学校間連携・生徒間協働活動を通して、各校との連携ノウハウの蓄積と学校間連携による6次産業化教育の浸透が図られた。

今後も、従来の専門教育の枠にとらわれずに、徳島ならではの地方創生に向けて6次産業化教育をさらに推進し、地域の産業界、大学の研究機関、地域の他の専門高校との連携強化等を積極的に進め、グローバル化の進展や技術革新、Society5.0に対応できる、持続可能な社会づくりの担い手になる人材を育成する必要がある。

第3章 本県農工商教育を取り巻く新たな課題

現在、我が国は人口減少・少子高齢化という課題に直面するとともに、Society5.0の到来やSDGsの達成が期待されるなど、これまでの常識が通用しない未知の世界が眼前に広がる時代を迎えている。そうした中、今後の社会の変化を見据え、本県農工商教育の現状から、次の4点を新たな課題とする。

1 人口減少・少子高齢化に伴う地域経済の縮小及び地域産業の担い手不足への対応

本県では、全国を上回る速度で人口減少・高齢化が進み、2015年の約76万人が、2030年に約65万人、2045年には約54万人にまで減少すると予測されている。

年少人口と生産年齢人口は減少の一途をたどり、こうした人口減少は、地方経済に、消費市場の規模縮小だけでなく、深刻な人手不足を生み出しており、それ故に事業の縮小を迫られるような状況も広範に生じつつある。

また、グローバル化・ボーダレス化の進展に伴い、世界規模で競争が激化する中、本県では、県内産業の競争力強化や、海外での販路拡大、インバウンド誘客を積極的に進めており、変化の激しい世界の経済情勢を捉えながら、地域産業を担う人材育成が求められている。

2 5Gで加速する第4次産業革命がもたらすSociety5.0を生き抜くために必要な学び

近年、IoT、ビッグデータ、AI、ロボットなどの革新技术がけん引する第4次産業革命が急速に進んでおり、5Gの導入によって、さらに進展すると考えられる。我が国では、そうした先端技術があらゆる産業や社会生活に大きな変化をもたらし、経済発展と同時に、様々な社会的課題の解決が図られ、誰もが質の高い生活を享受できる未来社会Society5.0の実現を目指すこととしている。本県においては、全国屈指の光ブロードバンド環境と今後整備される5Gにより、社会のあらゆる分野において、革新技术の社会実装を加速させ、地域が直面する諸課題を解決する、徳島ならではの*超スマート社会を具現化する取組を展開していくことが期待される。

このような社会を生き抜くために必要とされる、資質・能力の育成につながる学びを実現することが求められている。

3 SDGsの達成に貢献する、持続可能な開発のための教育（ESD）の推進

ESDとは、気候変動、生物多様性の喪失、資源の枯渇、貧困の拡大等、人類の開発活動に起因する現代社会における様々な問題を、自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組むことで、それらの問題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を実現していくことを目指す教育であり、今後の農工商教育にとって欠かすことができない重要な教育のひとつである。

教育はSDGsの目標4に位置付けられているが、教育が全てのSDGsの基礎であり、全てのSDGsが教育に期待しているといわれている。ESDをより一層推進することが、全ての目標の達成に貢献するものである。

4 小・中学生の農工商教育を行っている高校への進学希望を増やすための取組

農業科，工業科，商業科においては，第2章にあるような徳島県農工商教育活性化方針に基づいた特色ある取組を行い，関連する職業に従事する上で必要な資質・能力を育み，社会や産業を支える人材を育成してきた。水産科では，徳島科学技術高校において，地域の水産業の発展に貢献する人材を育成するため，大学や産業界，漁業者と積極的に連携し，地域の水産業・海洋関連産業の振興に取り組んできた。しかし，そうした取組を行う各高校の魅力が小・中学生や保護者，中学校教員等に十分に伝わっていない状況にあると考えられる。このことから，農工商教育を行っている高校に対する小・中学生や保護者，中学校教員等の理解・関心を高める取組が必要である。

第4章 本県農工商教育の活性化・魅力化に向けた方向性

本県農工商教育がさらに活性化するとともに、本県の将来を担う子どもたちにとって魅力的なものになることを目指し、第3章に掲げた新たな課題に対応した4つの方向性を次のとおり示す。

1 グローバル社会に対応でき、地方創生に資する人材の育成

地方創生に資する人材を育成するには、地域の課題をもとに体験と実践を伴う探究的な学びを実現する取組を行うことが必要である。地域課題の解決に挑戦することで、地域への課題意識や貢献意識を持った人材の育成につながる。また、自ら未来を切り拓いていく力を持たせる上で、起業家教育に取り組むことが重要である。起業家精神を育むとともに、より実践的な6次産業化教育を展開することで、徳島ならではの地域資源を生かした地域ブランドの開発や新しい産業の創出につなげ、地域社会を担う人材の育成が期待される。これらを実現するためには、地域や産業界、大学等との連携強化が不可欠であり、より高度な専門教育を学んだ人材育成のため、高大連携教育と大学へのキャリアパス構築を推進することが必要である。

また、東京2020オリンピック・パラリンピックや2025年日本国際博覧会などの国際イベントの機会を捉えた、世界的な規模で海外への視野を広げる教育を推進し、グローバル社会に対応した人材の育成が必要である。

2 5Gで加速する第4次産業革命がもたらすSociety5.0に対応できる人材の育成

5Gで加速する第4次産業革命がもたらすSociety5.0の実現を見据え、地域、産業界、大学等との連携による多様な学びの場の活用により、先端技術に触れる質の高い教育を行うことが求められている。子どもたちが自ら問題を見だし、その解決に向けて主体的・協働的に学ぶ環境を実現していく必要がある。しかし、社会や産業界の変化に応じた最新の教育を実現するには教育環境に課題があるため、地域や産業界、大学等と連携して、最新鋭の施設設備等の共同利用や外部専門家の派遣について協力を得る仕組みづくりが重要である。また、教職員が知識・技術の進展に対応し、専門性を高めるとともに、新しい指導方法を身に付けられるよう、研修の機会等の充実が求められている。

3 SDGsの達成に貢献する、持続可能な社会づくりの担い手の育成

本県では、地球規模の喫緊の課題である環境問題に対し、温室効果ガスの排出を抑制する緩和策と、既に現れている影響や中期的に避けられない影響に対して、被害を回避・軽減する適応策を両輪とした取組を展開している。こうした気候変動対策への取組や、環境、人、社会、地域に配慮した「エシカル消費」の推進など、SDGsの理念に通じる取組に関する教育を進めることで、持続可能な社会づくりの担い手の育成が求められている。

4 小・中学生や保護者等に対する農工商教育の効果的な魅力発信

農工商教育への興味・関心を高めるために、小・中学生等を対象にした出前授業や体験講座等の連携活動を行うことも必要である。小・中学生や保護者等への発信方法として、農工商教育を行う高校の魅力をもとめた動画での発信等も効果的である。

また、体験入学やオープンスクールについては、他校との入念な日程調整や休日開催、魅力的なプログラムの実施を可能な範囲で検討することも求められている。

中学生の進学希望校の決定には、中学校教員や保護者等のアドバイスが大きく影響するといわれているため、進路指導担当者や保護者向けの学校説明会の開催など、中学生以外の方々に教育内容等の理解を促す機会を設けることも大切である。

第5章 本県農工商教育の活性化・魅力化に向けた取組方策

1 本県における人材育成の基本理念

「徳島教育大綱」（令和元年8月策定）の基本方針「未知の世界に果敢に挑戦する、夢と志あふれる『人財』の育成」を具現化するため、「未来を切り拓いていく人財」、「新たな価値を創造していく人財」、「地域を輝かせる人財」を育成することを基本理念とし、「徳島ならではの」の農林水産業、工業、商業に関する教育による人材育成を行う。

2 産業界等が求めるもの（徳島県農工商教育活性化・魅力化協議会委員からの意見をまとめたもの）

（1）人材像

- 専門分野の基礎・基本を身に付け、他者と協働し主体的に行動できる人材
- 地域に貢献したい気持ちが強く、仕事に対して前向きな取組ができる人材
- 幅広い知識と教養を身に付け、コミュニケーション能力のある人材
- 自己管理能力が高く、挨拶の習慣や礼儀作法が身に付いている人材
- 何に興味があり、何がしたいのかという自己分析ができている人材

（2）農林水産業、工業、商業に関する教育への意見

- 実社会で活躍されている先輩方から話を聞いたり、産業現場を実際に見たりする機会を多くつくることで、地元産業界の魅力を伝え、将来自分が働く姿をイメージさせ、自分の判断で進路決定することにつなげる。
- 高校教員が徳島の企業のことを知り、それを進路指導に生かすために、地元産業界との連携による実践的な教員研修の機会を充実させる。

3 徳島ならではの農林水産業、工業、商業に関する教育

（1）農林水産業に関する教育

※農業には林業を含む。

○教育目標

農業及び水産の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業や農業関連産業及び水産業や海洋関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- ①農業及び水産や海洋の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- ②農業及び水産や海洋に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- ③職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、農業や農業関連産業及び水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

○育成する人材像

安定的な食料生産の必要性や農業のグローバル化への対応など農業を取り巻く社会的環境の変化を踏まえ、農業や農業関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成する。

水産物の世界的な需要の変化や資源管理、持続可能な海洋利用など水産や海洋を取り巻く状況の変化を踏まえ、水産業や海洋関連産業を通して、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成する。

○育成を目指す資質・能力

①知識及び技術

- ・農業生産や農業経営の分野，食品製造や食品流通の分野，国土保全や環境創造の分野，資源活用や地域振興の分野について，体系的・系統的に理解するとともに，農業に関する個別の知識や技術だけではなく，社会の中で活用する知識や技術などと相互に関連付けられる知識と技術
- ・海洋漁業分野，海洋工学分野，情報通信分野，資源増殖分野，水産食品分野について，体系的・系統的に理解し，水産や海洋に関する基礎的・基本的な知識，技術及び技能とともに，実践的・体験的な学習活動を通して，社会的意義や役割を含めた関連する技術
- ・将来の職業を見通して，よりよいものを創造できるよう発展的に学び続けることにつながる知識と技術

②思考力，判断力，表現力等

- ・利益や効率，成果だけを優先するのではなく，農業や農業関連産業に関する課題を発見し，科学的な根拠に基づき答えを導き出す力
- ・農畜産物の生産活動や販売及び地域環境の保全や管理などの活動の中で，見いだす様々な課題に対し思考しながら解決を図る力
- ・水産業や海洋関連産業に関する課題を発見し，職業人としての倫理観をもって，科学的根拠，経済性，社会資源及び環境への影響などを踏まえ，合理的かつ創造的に解決する力

③学びに向かう力，人間性等

- ・他者との協議により課題の解決策を見だし，他者の考えを踏まえながら，自己の意見を整理し，伝える力
- ・社会の信頼を得て，農業や農業関連産業及び水産業や海洋関連産業に従事するための倫理観，遵法精神，規範意識，責任感，協調性，リーダーシップなど

○活性化・魅力化に向けた取組方策

【方策1】地方創生に資する人材の育成

- ①地域と連携・協働し，人材育成を図る社会に開かれた学校づくりを推進する。
- ②地域理解を深め，地域の課題解決を図る*プロジェクト学習を充実する。
- ③地域や産業界，高等教育機関等と連携した6次産業化教育や起業家教育を推進する。
- ④グローバル人材の育成のため，地域から海外へ視野を広げる教育を推進する。

【方策2】先端技術に触れる教育の推進

- ①地域や産業界，高等教育機関等と積極的な連携を図り，スマート農林水産業等先端技術に対応した学習を推進する。
- ②インターンシップや就業体験を通して，専門性の向上やキャリア教育の充実を図る。
- ③各種大会参加や資格取得を奨励し，高い専門性を持ったスペシャリスト，アグリマイスターの育成を図る。

【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進

- ①「つくる責任，つかう責任」を踏まえ，持続可能な生産，及び環境，人，社会，地域などに配慮した「エシカル消費」を推進する。
- ②「GAP」や「*HACCP」の教育を通して，環境保全，労働安全，食品安全等を維持向上させる教育を推進する。
- ③伝統文化の継承，絶滅危惧種の保護活動，シードバンクの取組など郷土の自然や文化を次代につなぐ教育を推進する。
- ④農業教育の特質を生かした防災教育を創造する。

【方策4】農林水産業に関する教育の効果的な魅力発信

- ①児童・生徒，社会人に農林水産業の魅力を感じさせる体験活動や地域交流活動の充実を図る。
- ②効果的なPRにつながる体験入学やオープンスクール，学校説明会等の実施を工夫する。
- ③ICTを活用し，ホームページ等での情報発信の充実を図る。

(2) 工業に関する教育

○教育目標

工業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，ものづくりを通じ，地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ①工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。
- ②工業に関する課題を発見し，職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- ③職業人として必要な豊かな人間性を育み，よりよい社会の構築を目指して自ら学び，工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

○育成する人材像

単に生産性や効率のみを高めることにとどまらず，製品などが社会に及ぼす影響に責任をもち，ものづくりを通じて，地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成する。

○育成を目指す資質・能力

①知識及び技術

- ・工業の各分野の学習活動を通して、ものづくりに関する個別の事実的な知識、一定の手順や段階を追って身に付く個別の技術のみならず、相互に関連付けられるとともに、具体的なものづくりと結び付き、変化する状況や課題に応じて社会の中で主体的に活用することができる知識と技術
- ・将来の職業を見通してさらに専門的な学習を続けることにつながる知識と技術

②思考力、判断力、表現力等

- ・工業の各分野などの学習を通して身に付けた様々な知識、技術などを活用し、地域や社会が健全で持続的に発展する上で、広い視野から工業に関する諸課題を発見する力
- ・情報化などが進展する社会において、変化の先行きを見通すことが難しい予測困難な時代を迎える中で、唯一絶対の答えがない課題に向き合い、単に生産性や効率のみを高めることだけを優先するだけではなく、技術者に求められる倫理観等を踏まえ、製品などが社会に及ぼす影響に責任をもち、工業技術の進展に対応するなどして解決策を考え、科学的な根拠に基づき結果を検証し改善することができる力

③学びに向かう力、人間性等

- ・工業技術が現代社会で果たす意義と役割を踏まえ、単に技術的課題を改善するだけではなく、ものづくりに必要な職業人に求められる倫理観、ものづくりを通して社会に貢献する意識
- ・ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を目指して工業の各分野について主体的に学ぶ態度
- ・絶え間のない技術革新などを踏まえ、既存の製品や生産プロセスを改善・改良するのみでなく、ものづくりにおける協働作業などを通してコミュニケーションを図り、異分野の技術を融合・組み合わせるなどして、新しい製品や生産プロセスを創造する中で、法規に基づいて工業の発展に責任をもって協働的に取り組む態度

○活性化・魅力化に向けた取組方策

【方策1】地域課題の解決に挑戦

- ①職業資格の取得や競技会への出場などを通して、自ら学ぶ意欲を高める教育活動を推進する。
- ②地域産業界や関係団体、行政機関と連携強化を進め、インターンシップなどキャリア教育を推進する。
- ③自ら企画し、高い志を持ち、多様な他者と協働しながら新しい価値を生み出す主体性や創造性、起業家精神等を育成する起業家教育や6次産業化教育を推進する。
- ④グローバルな視点を取り入れた学習内容の充実を図る。

【方策2】先端技術に触れる教育の推進

- ①先端技術に対応した工業に関する教育を推進するため、企業や高等教育機関等と積極的な連携を図る。
- ②技術革新に対応できる高い専門性と実践的な指導力を身に付けるため、企業や高等教育機関等を活用した教員研修の充実を図る。
- ③技術の高度化や情報技術の発展等に対応した学習内容の充実を図る。
- ④課題研究などにおいて*STEAM教育を推進する。

【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進

- ①ものづくりにおける持続可能な開発のための教育（ESD）を推進する。
- ②環境問題や省エネルギーに対応した学習内容の充実を図る。
- ③防災やユニバーサルデザイン等の知識と技術に関する学習内容の充実を図る。

【方策4】工業に関する教育の効果的な魅力発信

- ①徳島県高校生産業教育展の更なる活性化を図る。
- ②小・中学生を対象とした出前授業や体験授業などの教育活動を充実し、工業に係る仕事の魅力をPRする。
- ③ICTを活用するなど、高校における工業に関する教育の魅力の情報発信する。

(3) 商業に関する教育

○教育目標

企業活動に関する事象を、企業の社会的責任に着目して捉え、ビジネスの適切な展開と関連付け、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ①商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- ②ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- ③職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

○育成する人材像

グローバル化の進展、情報技術の進歩など時代の変化に対応するとともに、観光産業の振興、地域におけるビジネスの推進を踏まえ、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成する。

○育成を目指す資質・能力

①知識及び技術

- ・マーケティング分野，マネジメント分野，会計分野，ビジネス情報分野について，体系的・系統的に理解するとともに，分野別だけではなく，相互に関連する知識と技術
- ・具体的なビジネスと結びつき，ビジネスの様々な場面で役に立ち，将来を見通して，専門的な学習を継続することにつながる知識と技術

②思考力，判断力，表現力等

- ・身に付けた様々な知識や技術などを活用し，ビジネスの実務における具体的な課題を発見する力
- ・企業活動が社会に及ぼす影響などを踏まえ，科学的根拠に基づいて工夫し，課題を解決する力

③学びに向かう力，人間性等

- ・ビジネスを通じ，地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を目指して主体的に学ぶ態度
- ・社会の信頼を得て，ビジネスを展開する上で求められる倫理観，ビジネスを通して社会に貢献する意識

○活性化・魅力化に向けた取組方策

【方策1】地域に根ざしたビジネス教育の推進

- ①将来，ビジネスを円滑に進めることができるコミュニケーション能力を育成する。
- ②地域産業及び経済社会の実務に即した具体的なビジネス実践力を育成する。
- ③多様な人々と協働して新たな価値を創造していく力を育成する。
- ④世界の文化・商慣習の多様性を尊重し，地球規模で経済を俯瞰できるグローバルなビジネス人材を育成する。
- ⑤地域資源，観光資源を活用し，地域の活性化を担うグローバル人材を育成する。

【方策2】先端技術を活用した教育の推進

- ①経営資源（人的・物的・財務的・情動的資源）のマネジメントを行う能力と新たな物事にチャレンジする起業家精神を育成する。
- ②AIやビッグデータを最大限活用しながら，企業活動をはじめ，ビジネスに展開し，状況に応じた判断力，発想力，実践力を育成する。
- ③社会や産業の変化に柔軟に対応し，新たな分野を含めた専門スキルの向上を図るため，自ら学び続ける力を育成する。

【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進

- ①全てのSDGs（持続可能な開発目標）達成の基礎となるESD（持続可能な開発のための教育）を推進し、SDGsに貢献するための知識、技能、価値観、態度を備えた担い手を育成する。
- ②将来、社会や職業で必要となる資質・能力を育成するとともに、キャリア教育の更なる充実を図る。
- ③専門の学び、資格取得や各種競技会等における取組を通して、ビジネスの様々な場面で役立つ知識・技術を身に付け、確かな学力の育成を図る。
- ④環境、経済、社会の統合的な発展につなげるため、他者と協力する力や多面的かつ総合的なものの見方を備えた人材を育成する。

【方策4】商業に関する教育の効果的な魅力発信

- ①多様な連携や様々な交流活動、販売実習等を通して、商業の学びを広く発信する。
- ②ソーシャルネットワークの活用を推進し、様々なデジタルコンテンツによる情報発信を積極的に図る。

(4) 6次産業化に対応した教育

○農林水産業に関する教育を核とした6次産業化教育の推進

前方針の策定以前より、農林水産業に関する教育を行う学校では、生産（第1次産業分野）、加工（第2次産業分野）に関連する各科目の中で、販売（第3次産業分野）についても実習の一環として行われてきたが、生産、加工、販売が一体化した教育としては十分でなく、主に生産の分野に重点がおかれていた。また、農林水産業、工業、商業に関する教育を行っている学校において、各学校ごとに地域や企業との連携による商品開発や販売実習の取組や、例えば、農業高校で栽培した花を工業高校で製作した木製プランターに植えて、地域に提供するなど、それぞれの専門性を生かした、地域への貢献活動の取組も行われてきたが、分業であり、生徒間協働活動とはなっていなかった。

そこで、前方針では、少子高齢化による農林水産業における深刻化した担い手不足への対応策として、雇用を生む産業を創出し、地域の再生と活性化をもたらすことが期待される6次産業化に対応した教育の必要性が示され、これを受けて、産業分類を越えた6次産業化をプロデュースできる人材の育成を目的として、生産から販売までを総合的かつ一体的に捉え、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出す6次産業化に対応した教育の推進を図ってきた。

具体的には、平成27年度に「農工商連携6次産業化プロデュース事業」を開始し、県央の農業・工業・商業科設置校において、従来からの専門分野の分業でなく、学科の枠を越えた学校間連携・生徒間協働活動により、農業科の生産物をテーマに、生産、商品開発、加工、販売を一体化した6次産業化に対応した教育を推進した。平成28年度からは、県央での成果を踏まえ、県南、県西へと拡充し、県下3地域それぞれの特性を生かした徳島ならではの6次産業化教育を展開している。

加えて、平成29年度には、単独で6次産業化に対応した教育を行う「アグリビジネス科」を城西高校の農業科に新設、また、平成30年度には、農工商が一体化した専門教育を行う高校として、阿南光高校を開校するとともに、各校において6次産業化教育を展開するために必要となる施設を整備するなど、6次産業化教育の更なる推進を図った。

地方創生に資する6次産業化教育を推進するに当たっては、農林水産業、工業、商業に関する教育の専門的な知識・技術の基礎・基本を身に付けた上で、他分野との連携を図ることで、他分野を知り、社会における自らの専門分野の役割や意義を再認識できるようにすることは重要である。

このため、学科の枠を越えた学校間連携・生徒間協働活動として実施してきた「6次産業化プロデュース事業」と同様の取組については、これまでの成果と課題を踏まえ、地域に根ざした、より実践的な活動となるよう、地域との連携を強化しつつ、引き続き、実施する必要がある。

今後は、学校間、地域や産業界等との連携による「地域製品のブランド化」や「地産地消」の取組はもとより、新たに、地域産品を海外や国内大都市に販売する「地産外消」や地域特産品を観光資源として活用する取組により、第1次産業での所得向上や地域への人の流れを創る新たなビジネスモデルの創出につながる6次産業化教育を展開することで、将来、地域の活性化につながる地域資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成する。

○育成する人材像

徳島の地域資源を活用した地域ブランドとなる商品開発を通して、地域を知り、地域の課題解決につながる探究的な学びへとつなげることのできる、グローバルな考え方を備え、地域ならではの新しい価値を創造することができる人材を育成する。

○活性化・魅力化に向けた取組方策

本県では、農林水産業、工業、商業に関する教育の枠を越えた様々な形態の連携による6次産業化教育の推進体制が整備されている。

農工商一体型の阿南光高校、1学科で農工商教育を展開できる城西高校アグリビジネス科をはじめ、2学科併設校である徳島科学技術高校（工業科、水産科）、吉野川高校（農業科、商業科）、つるぎ高校（工業科、商業科）では、高校ごとに新たな展開を図る。

学校間連携・生徒間協働活動による6次産業化教育においては、農林水産業に関する教育を行っている学校を核とし、工業、商業に関する教育を行っている学校との連携にとどまらず、地域の様々な人材や団体、産業界や大学等との連携を強化し、本県が誇る農林水産物や、観光地等の豊富な地域資源を生かした、より実践的な6次産業化教育を推進する。

また、地域を知り、地域課題の解決等を通じた探究的な学びを通して、各校の活性化、魅力化につなげるとともに、地域の活性化に貢献する農林水産業、工業、商業に関する教育を推進する。

第6章 農工商教育を行う高校が取り組む具体的な活性化・魅力化策

令和2年度から令和6年度までの5年間に、農工商教育を行う高校が活性化・魅力化に向けて計画的に取り組む内容は次のとおりである。

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
城西高校 【農業科】					
【方策1】 地方創生に資する人材の育成 に対応した取組					
◆学校と地域が協働して人材育成に取り組み、開かれた学校づくりを進めます。 ◇学校が協働した大学・企業・関係機関等の数 (R1) 3件 → (R6) 6件	4件	4件	5件	5件	6件
◆地域農業や農業関連産業の担い手を育成します。 ◇農業及び農業に関係する企業・法人・大学等への就職・進学率 (R1) 10% → (R6) 50%	20%	30%	40%	40%	50%
◆地域課題の解決を目指すプロジェクト学習を推進し、学校農業クラブ活動を活性化させます。 ◇地域課題解決へ向けた課題研究テーマ数 (R1) - → (R6) 6テーマ	2テーマ	3テーマ	4テーマ	5テーマ	6テーマ
◇プロジェクト発表県予選会への出場 (R1) 2件 → (R6) 3件	2件	2件	2件	3件	3件
◆地域の特産物を継承し発展させる6次産業化教育を進めます。 ◇地域の特産物を生かした6次産業化商品の開発数(累計) (R1) 1品 → (R6) 5品	2品	3品	3品	4品	5品
◆国際交流・海外体験の機会を通して、生徒の視野を広げる教育を推進します。 ◇国際交流回数 (R1) 1回 → (R6) 1回以上	1回	1回	1回	1回	1回
◆学校農場の中で農業経営感覚を培い、儲かる農場経営を実践します。 ◇農場収入額 (R1) 970万円 → (R6) 1100万円	以上	以上	以上	以上	以上
	980万円	990万円	990万円	1000万円	1100万円
【方策2】 先端技術に触れる教育の推進 に対応した取組					
◆徳島大学や農林水産総合技術支援センター、関係機関、農業法人、企業等と連携して、先端技術に関する学習を充実させます。 ◇見学研修回数 (R1) 1回 → (R6) 4回	2回	2回	3回	3回	4回
◇出前講座・技術講習の実施回数 (R1) - → (R6) 3回	1回	2回	2回	3回	3回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
◆インターンシップを通して、専門性を向上させるとともに、職業観・勤労観を育み、キャリア教育を充実させます。 ◇インターンシップ参加人数（延べ人数） （R1）3人 → （R6）25人	5人	10人	15人	20人	25人
◆農業に関する専門的な知識・技術を習得させ、将来に生かせるための資格取得を推進します。 ◇日本農業技術検定3級卒業時合格率 （R1）50% → （R6）85%	55%	60%	75%	80%	85%
◇アグリマイスター顕彰制度シルバー、ゴールド認証生徒数 （R1）5名 → （R6）15名	5名	5名	10名	10名	15名
◇職業資格（各科推奨する資格1以上）の卒業時取得率 （R1）40% → （R6）80%	45%	50%	60%	70%	80%
【方策3】持続可能な社会づくりに向けた教育の推進					
に対応した取組					
◆エシカル消費の取組を一層推進し、普及・啓発活動をリードします。 ◇エシカル消費の普及・啓発・研究活動の実践数 （R1）6件 → （R6）6件	6件	6件	6件	6件	6件
◇エシカル消費の認知度（耕心祭でのアンケート調査） （R1）45% → （R6）70%	50%	55%	60%	65%	70%
◇「そよかぜ」での地産地消による農産物の顧客満足度（アンケート調査） （R1）－ → （R6）90%	50%	60%	70%	80%	90%
◆持続可能な循環型社会を構築するための環境保全型農業を推進します。 ◇環境保全型農業（有機農業・資源循環型農業等）での生産作目数 （R1）1種類 → （R6）2種類	1種類	1種類	2種類	2種類	2種類
◆食品安全・労働安全・環境保全に配慮した農業生産・食品加工を実践します。 ◇GAP手法による農業生産の実践作目数（うち認証取得数） （R1）1種類（1） → （R6）3種類（1）	1種類	1種類	2種類	2種類	3種類
◇HACCP手法による食品衛生管理の実践加工品数（うち認証取得数） （R1）－ → （R6）3品（1）	1品	1品	2品	2品	3品
◆地域の工芸作物・食材を継承・発掘し、活用する中で、地域の伝統文化や郷土愛を育みます。 ◇教材活用品目数（累計） （R1）3品 → （R6）6品	3品	4品	4品	5品	6品
◆農業学習を通して、防災意識を高め自主的に行動できる人材を育てます。 ◇地域防災活動への参加人数（累計） （R1）20人 → （R6）120人	40人	60人	80人	100人	120人

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
【方策4】農林水産業に関する教育の効果的な魅力発信					
に対応した取組					
◆体験入学やオープンスクールを工夫し、中学生の農業科の学習に対する興味・関心を高めます。					
◇オープンスクール参加中学生数 (R1) 25名 → (R6) 75名	35名	45名	55名	65名	75名
◇オープンスクール、体験入学での中学生の満足度 (アンケート実施) (R1) - → (R6) 100%	80%	80%	90%	90%	100%
◆交流活動や販売実習を生かして農業教育の魅力をPRします。					
◇そよ風農園連携事業での参加児童の満足度(アンケート実施) (R1) 100% → (R6) 100%	100%	100%	100%	100%	100%
◇校内農産物販売所「そよかぜ」の来場者数(年平均) (R1) 30名 → (R6) 60名	40名	45名	50名	55名	60名
◆ホームページやマスコミを通じて学習の成果を広く発信します。					
◇学校ホームページでの各学科取組内容の更新回数 (R1) - → (R6) 4学科各5回以上	4回	5回	5回	5回	5回
◆一般者や中学生への学校農業クラブ活動に関する広報を進め、学校農業クラブ県大会への参加者を増やし、学校農業クラブ活動の認知度を高めます。					
◇県予選会・年次大会等への参加者数 (R1) - → (R6) 60名	10名	20名	20名	20名	60名
◇入学生の学校農業クラブ活動認知度 (R1) - → (R6) 50%	10%	20%	20%	30%	50%

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
城西高校 【総合学科】（商業に関する教育）					
【方策1】地域に根ざしたビジネス教育の推進 に対応した取組					
◆地域企業等と連携し、地域理解を深める学習を通し、将来のスペシャリストや地域産業の担い手の育成をします。					
◇企業・官公庁等や地域の有識者の講演回数 (R1) - → (R6) 3回	1回	1回	2回	3回	3回
◇各種企業の見学・インターンシップへの生徒参加率 (R1) - → (R6) 100%	50%	50%	70%	90%	100%
【方策2】先端技術を活用した教育の推進 に対応した取組					
◆企業や大学の協力を得て、ICTを効果的に活用し、複合的な専門知識や技術の高度化に対応した教育を推進します。					
◇地元企業での先端技術に関する学習回数 (R1) - → (R6) 2回	1回	1回	1回	2回	2回
◇タブレット端末学習を導入している大学での学習回数 (R1) - → (R6) 2回	1回	1回	1回	2回	2回
【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組					
◆SDGsの目標達成へ向けた教育内容を科目に位置づけ、生徒の理解と実践力を育てます。					
◇SDGsに関する学習回数 (R1) - → (R6) 3回	3回	3回	3回	3回	3回
◆産業界で必要な専門知識の高度化に対応した実践教育を推進します。					
◇全国商業協会主催検定1級取得率（2種目以上） (R1) - → (R6) 50%	10%	20%	30%	40%	50%
【方策4】商業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組					
◆商業系列の学習の魅力を体感できる体験入学やオープンスクールを工夫し、中学生の関心を高めます。					
◇中学生の受講満足度（アンケート実施） (R1) - → (R6) 100%	70%	70%	80%	90%	100%
◆商業系列の学習内容をホームページで積極的に情報発信します。					
◇ホームページ更新回数 (R1) - → (R6) 5回	3回	3回	3回	5回	5回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
城西高校神山校 【農業科】					
【方策1】 地方創生に資する人材の育成 に対応した取組					
◆コンソーシアム（地域協働体の組織）による地域と協働した人材育成の取組を推進します。 ◇生徒が食の6次産業化の手法・戦略を指導する回数 （R1）1回 → （R6）3回	1回	2回	2回	3回	3回
◆農業や農業関連産業の職に興味を持たせる教育活動を推進します。 ◇県内外農業関連教育機関及び法人等への進学・就職率 （R1）4% → （R6）30%	10%	15%	20%	25%	30%
◇日本農業技術検定3級の合格率（卒業時取得率） （R1）40% → （R6）90%	50%	60%	70%	80%	90%
◆学校設定科目を通じた地域連携を推進します。 ◇農業・環境・食品関係の講演会の実施数（累計） （R1）2件 → （R6）3件	2件	3件	3件	3件	3件
◇生産・加工に関する地域連携活動の実施数（累計） （R1）7件 → （R6）10件	10件	10件	10件	10件	10件
◆農業の視点を取り入れた海外留学や国際交流を推進します。 ◇海外留学で農業を学ぶ生徒数 （R1）6人 → （R6）6人	6人	6人	6人	6人	6人
◇神山町国際交流プロジェクトに参加している海外の中高生とともに職場体験実習に取り組む生徒数 （R1）－ → （R6）6人	2人	3人	4人	5人	6人
◇ホストタウン相手国等との食の文化交流活動の実施数 （R1）2件 → （R6）2件	2件	2件	2件	2件	2件
【方策2】 先端技術に触れる教育の推進 に対応した取組					
◆ICTやAIを活用した農業教育を推進します。 ◇パソコンを活用した調べ学習の実施回数 （R1）2回 → （R6）7回	3回	4回	5回	6回	7回
◇課題研究等の授業で最新機械の活用時間数 （3Dプリンター・レーザーカッター等） （R1）10時間 → （R6）10時間	10時間	10時間	10時間	10時間	10時間
◇ICT・AI関係の講師による出前授業の実施回数 （R1）2回 → （R6）3回	3回	3回	3回	3回	3回
◆高度な農業技術と社会性を身につけるためのキャリア教育を推進します。 ◇農業や農業関連産業の職場体験やインターンシップの体験数 （累計） （R1）2件 → （R6）6件	2件	3件	4件	5件	6件
◆高い専門性を持ったスペシャリストの育成を推進します。 ◇農業関連の技能検定及び資格取得率（卒業時取得率） （R1）60% → （R6）100%	60%	70%	80%	90%	100%

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組 ◆SDGsの理念に通じる取組に関する教育を進め、持続可能な社会づくりの担い手を育成します。 ◇SDGsを取り入れた出前授業の実施回数 (R1) 3回 → (R6) 3回 ◇SDGsに関する講演会の実施回数 (R1) 1回 → (R6) 1回 ◇SDGsに関する発表会への参加回数 (R1) 1回 → (R6) 3回	3回	3回	3回	3回	3回
【方策4】農林水産業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組 ◆中学校や地域の方々に神山校の学びを理解してもらおうと共に、全国規模のコンテストやイベントへの参加を推進します。 ◇農業環境系のサミットやフォーラムへの参加・発表回数 (R1) 1回 → (R6) 2回 ◇校庭マルシェ等の来場者数 (R1) 300人 → (R6) 500人 ◇オープンスクールや学校説明会の満足度(アンケートの実施) (R1) 60% → (R6) 80% ◇中学校・地域への活動報告発表会の実施回数 (R1) 1回 → (R6) 2回	2回	2回	2回	2回	2回
	2回	2回	2回	2回	2回
	300人	350人	400人	450人	500人
	70%	70%	80%	90%	100%
	2回	2回	2回	2回	2回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
徳島科学技術高校 【工業科】					
【方策1】 地域課題の解決に挑戦 に対応した取組					
◆工業の各分野などの学習を通して身に付けた知識や技術などを活用し、職業資格の取得や競技会へ出場することにより、自ら学ぶ意欲を高めるなどの教育活動を推進します。 ◇各種コンテスト・競技会の四国大会・全国大会への出場回数 (R1) 10回 → (R6) 14回	10回	10回	12回	12回	14回
◆地域、企業、関係機関との連携により、工業分野に興味・関心を持たせ、将来、地域産業の発展に貢献する担い手となる人材育成を推進します。 ◇インターンシップへの参加人数 (R1) 65名 → (R6) 80名	65名	70名	70名	75名	80名
◆地域産業界や他の専門高校と協働しながら新しい価値を生み出す主体性や創造性を育成する6次産業化教育を推進します。 ◇6次産業化教育の実施 (R1) 推進 → (R6) 推進	推進				→
◆グローバル人材育成のために、海外の職業学校との技術交流を通じて海外への視野を広げ、国際感覚を育てるための教育を推進します。 ◇ドイツ・ブリンクシュトラーク職業学校との交流回数 (R1) 1回 → (R6) 1回	1回	1回	1回	1回	1回
【方策2】 先端技術に触れる教育の推進 に対応した取組					
◆先端技術に対応した工業に関する教育を推進するために、企業、大学、関係機関と積極的に連携し、工業分野の学習の充実を図ります。 ◇企業・大学見学の実施回数 (R1) 26回 → (R6) 30回	26回	28回	28回	30回	30回
◇大学、企業等から外部講師を招聘した講義等の実施回数 (R1) 12回 → (R6) 15回	12回	12回	13回	14回	15回
◆技術革新に対応できる高い専門性と実践的な指導力を身に付けるため、企業や高等教育機関等を活用した教員研修の充実を図ります。 ◇全国工業高等学校長協会等が主催する研修会等への参加人数 (R1) 2名 → (R6) 3名	2名	2名	3名	3名	3名
◆SSH（スーパーサイエンスハイスクール）課題研究等を通して、科学的視野を持って工業に関する課題を発見し、他者と協働しながら主体的に課題解決できる知識と技術を身に付ける学習を推進します。 ◇課題研究発表会の実施回数 (R1) 10回 → (R6) 10回	10回	10回	10回	10回	10回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
<p>◆グローバルに理解することができる理工学コンピテンスを備えた人材を育成するために、SSH事業を通して、STEAM教育を推進します。</p> <p>◇SSH事業の実施 (R1) 推進 → (R6) 推進</p>	推進				→
【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進					
に対応した取組					
<p>◆環境問題や省エネルギーに対応した学習内容を充実させ、工業教育における持続可能な開発のための教育(ESD)を推進します。</p> <p>◇環境・エネルギー等に関する実習・課題研究のテーマ数 (R1) 9テーマ → (R6) 12テーマ</p>	9テーマ	10テーマ	10テーマ	12テーマ	12テーマ
<p>◆防災やユニバーサルデザイン等の知識と技術に関する学習を充実させ、地域社会の持続的な発展を担う人材育成につながる教育を推進します。</p> <p>◇防災・ユニバーサルデザインに関する実習・課題研究のテーマ数 (R1) 1テーマ → (R6) 3テーマ</p>	1テーマ	2テーマ	2テーマ	3テーマ	3テーマ
【方策4】工業に関する教育の効果的な魅力発信					
に対応した取組					
<p>◆中学生や保護者等に対する工業の学習についての理解・関心を高め、中学生の進路選択につなげるために、体験活動を推進します。</p> <p>◇徳島県高校生産業教育展での体験ブースの出展数 (R1) 1ブース → (R6) 2ブース</p>	1ブース	1ブース	2ブース	2ブース	2ブース
<p>◇中学生体験入学参加者の満足度(アンケート実施) (R1) 93% → (R6) 95%</p>	93%	95%	95%	95%	95%
<p>◆地域の小・中学生を対象とした出前授業などの教育活動を充実し、科学や技術に対して興味・関心を持たせ、工業教育の魅力をPRします。</p> <p>◇出前授業等の実施回数 (R1) 2回 → (R6) 4回</p>	2回	2回	3回	3回	4回
<p>◆ICTを活用し、実習や課題研究、SSHの取組等をホームページに掲載することで情報発信の充実を図ります。</p> <p>◇ホームページへの掲載回数 (R1) 25回 → (R6) 40回</p>	30回	30回	35回	35回	40回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
徳島科学技術高校 【水産科】					
【方策1】 地方創生に資する人材の育成 に対応した取組					
◆将来の地域水産業の担い手を育成するために、地域の漁業組合や企業等と連携し、漁業実習などの様々な体験を通して水産業への理解を深める教育を推進します。 ◇漁業実習や見学会の実施回数 (R1) 3回 → (R6) 3回	3回	3回	3回	3回	3回
◆グローバル人材育成のために、海外の職業学校との交流を通じて海外への視野を広げ、国際感覚を育てるための教育を推進します。 ◇台湾国立蘇澳高級水産海事職業学校との交流回数 (R1) 1回 → (R6) 1回	1回	1回	1回	1回	1回
【方策2】 先端技術に触れる教育の推進 に対応した取組					
◆徳島県農林水産総合技術支援センター水産研究課や徳島大学水圏教育研究センター、大学等と連携し、海藻種苗生産などの先端技術に対応した学習を推進します。 ◇先端技術などを導入した講義の実施回数 (R1) 1回 → (R6) 3回	1回	1回	2回	2回	3回
◆四国運輸局や企業等と連携し、内航船などのインターンシップや造船所見学などを通して、専門性の向上やキャリア教育の充実を図ります。 ◇インターンシップ、見学会などの実施回数 (R1) 2回 → (R6) 2回	2回	2回	2回	2回	2回
◆生徒研究発表会や意見・体験発表会への参加や資格取得を奨励し、高い専門性を持ったマリンマイスターの育成を図ります。 ◇マリンマイスター認定生徒数 (R1) 7名 → (R6) 10名	7回	7回	8回	9回	10回
【方策3】 持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組					
◆持続可能な社会づくりに向けて、環境や人、社会、地域などに配慮した「エシカル消費」を推進します。 ◇未利用水産資源を使った防災食の出前授業の実施回数 (R1) 1回 → (R6) 1回	1回	1回	1回	1回	1回
◆徳島県沿岸の海洋環境や藻場についての調査を実施し、環境保全活動を通して自然や文化を次世代につなぐ教育を推進します。 ◇フィールドワーク等による海洋環境の調査回数 (R1) 2回 → (R6) 4回	2回	3回	3回	4回	4回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
【方策4】農林水産業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組 ◆中学生、保護者等に対する水産・海洋の学習についての理解・関心を高め、中学生の進路選択につなげるため、体験学習や地域交流を推進します。 ◇実習船「阿州丸」による体験航海の実施回数 (R1) 1回 → (R6) 2回 ◇未利用水産資源を使った防災食の出前授業の実施回数(再掲) (R1) 1回 → (R6) 1回 ◇中学生体験入学参加者の満足度(アンケート実施) (R1) 93% → (R6) 95% ◆ICTを活用し、海洋実習や課題研究、SSHの取組をホームページに掲載することで情報発信の充実を図ります。 ◇ホームページへの掲載回数 (H30) 35回 → (R6) 40回	1回	1回	1回	2回	2回
	1回	1回	1回	1回	1回
	93%	95%	95%	95%	95%
	40回	40回	40回	40回	40回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
徳島科学技術高校 定時制 【工業科】 【方策1】地域課題の解決に挑戦 に対応した取組 ◆職業資格の取得や競技会への出場などを通して、自ら学ぶ意欲を高めるなどの教育活動を推進します。 ◇各種資格・検定の受験率(延べ受験者数/在籍生徒数) (R1) 1.4倍 → (R6) 1.7倍 ◆地域、企業、関係機関との連携を強化し、インターンシップや外部講師によるガイダンスを通して、キャリア教育を推進します。 ◇外部講師等による進路選択のためのガイダンスの実施回数 (R1) 1回 → (R6) 1回	1.5倍	1.5倍	1.6倍	1.7倍	1.7倍
【方策2】先端技術に触れる教育の推進 に対応した取組 ◆技術革新に対応できる高い専門性と実践的な指導力を身に付けるため、企業や高等教育機関等を活用した教員研修の充実を図ります。 ◇各種研修会等への参加教員数 (R1) 1名 → (R6) 3名	2名	2名	3名	3名	3名
【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組 ◆防災やユニバーサルデザイン等の知識と技術に関する学習内容の充実を図ります。 ◇防災・ユニバーサルデザインに関する実習・課題研究のテーマ数 (R1) - → (R6) 1テーマ	1テーマ	1テーマ	1テーマ	1テーマ	1テーマ
【方策4】工業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組 ◆徳島県高校生産業教育展のさらなる活性化を図ります。 ◇実習や課題研究での作品の展示・説明等による日頃の学習成果の発信 (R1) 推進 → (R6) 推進	推進				→

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
徳島商業高校 【商業科】					
【方策1】地域に根ざしたビジネス教育の推進 に対応した取組					
◆コミュニケーション能力やビジネス実践力を育成するとともに新たな価値を創造する力を育成する教育を推進します。					
◇キャリア教育推進のための社会人講師の招聘講座数 (R1) 3講座 → (R6) 3講座	3講座	3講座	3講座	3講座	3講座
◇地元企業等に対するビジネスアイデアの提言件数 (R1) 2件 → (R6) 6件	2件	3件	4件	5件	6件
◇職場体験実習、インターンシップ等の協力事業所数 (R1) 6社 → (R6) 10社以上	10社 以上	10社 以上	10社 以上	10社 以上	10社 以上
◆国際社会の多様性を学び、コミュニケーション能力やグローバルな視野を養うとともに、地域資源や観光資源を開発・活用することにより、地域活性化を担う人材を育成する教育を推進します。					
◇外国人との交流による国際理解教育の実施回数 (R1) 3回 → (R6) 3回以上	3回 以上	3回 以上	3回 以上	3回 以上	3回 以上
◇全商英語検定2級以上取得率(3年取得者数/3年生数) (R1) 4% → (R6) 20%	10%	15%	20%	20%	20%
◇観光商品の企画や地域観光資源のブランド力向上等に向けた取組件数 (R1) - → (R6) 3件以上	3件 以上	3件 以上	3件 以上	3件 以上	3件 以上
【方策2】先端技術を活用した教育の推進 に対応した取組					
◆経営資源をマネジメントすることにより、新たな事にチャレンジして新たな価値を創造できる人材を育成するため起業家教育を推進します。					
◇地域資源を活用した6次産業化商品の開発数 (R1) 2品 → (R6) 2品	2品	2品	2品	2品	2品
◇起業家等と連携した学習活動(授業、イベント等)回数 (R1) 2回 → (R6) 3回	3回	3回	3回	3回	3回
◆ビジネスに関する先端技術やビッグデータを活用している企業や大学等との連携により、企業活動の進展を理解させることで、商業に関する学習の充実を図ります。					
◇先端技術を導入している企業、大学等での学習回数 (R1) - → (R6) 2回	2回	2回	2回	2回	2回
◇産・学・官連携事業の実施回数 (R1) 2回 → (R6) 3回	3回	3回	3回	3回	3回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組 ◆キャリア教育や消費者教育の更なる充実により、SDGs達成の基礎となるエシカル消費教育に取り組み、環境、経済社会の統合的発展を担う人材を育成します。 ◇フェアトレードによる商品開発数（累計） （R1）1品 → （R6）6品 ◇エシカル消費推進のための活動回数 （啓発活動、フェアトレード商品販売等） （R1）－ → （R6）5回 ◆資格取得等を通して、ビジネス活動に役立つ知識や技術を身につけ、地域社会の持続的な発展を担う人材育成につながる教育を推進します。 ◇全商3種目1級資格取得率（3年取得者数／3年生数） （R1）12% → （R6）25% ◇日商簿記検定2級、ITパスポート試験資格取得率 （3年取得者数／3年生数） （R1）4% → （R6）15% ◇商業関係各種競技会における全国大会出場種目数 （R1）2種目 → （R6）6種目 ◆将来のビジネスリーダーを育成するため、高等教育機関への進学に、より対応した教育課程を編成するなどの取組を推進します。 ◇進学希望者を支援する教育環境の整備 （R1）－ → （R6）推進	2品	3品	4品	5品	6品
	3回	3回	5回	5回	5回
	15%	20%	25%	25%	25%
	15%	15%	15%	15%	15%
	4種目	5種目	6種目	6種目	6種目
	推進				→
【方策4】商業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組 ◆中学生や保護者等に商業の学習についての理解・関心を高め、中学生の進路選択につなげるため、地域に開かれた学校づくりを推進します。 ◇各種イベントでの商品企画や販売活動（徳商デパート等）回数 （R1）2回 → （R6）3回 ◇体験入学参加時の専門教科授業参加者の満足度 （R1）－ → （R6）100% ◆国際理解教育や観光教育に関する活動や地元企業をPRするデジタルコンテンツによる情報を発信します。 ◇国際理解教育や観光教育に関するデジタルコンテンツ作成数 （R1）2作品 → （R6）3作品 ◇学校Webページの更新回数 （R1）600回 → （R6）700回	3回	3回	3回	3回	3回
	80%	80%	90%	90%	100%
	3作品	3作品	3作品	3作品	3作品
	650回	650回	700回	700回	700回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
小松島西高校 【商業科】					
【方策1】地域に根ざしたビジネス教育の推進 に対応した取組 ◆地域に必要とされるビジネスマンを育成するため、一般常識やコミュニケーション能力等を身に付ける教育を推進します。 ◇全国経理教育協会主催社会人常識マナー検定3級合格率 (R1) 70% → (R6) 90%	70%	75%	80%	85%	90%
◆地域資源を活かしたアイデアを創造し、地域産業に貢献できる能力や人材の育成を推進します。 ◇ビジネスアイデアコンテスト等への参加回数 (R1) 1回 → (R6) 2回	1回	1回	2回	2回	2回
【方策2】先端技術を活用した教育の推進 に対応した取組 ◆時代に対応できるマネジメント能力や起業家精神を育成するために、起業家や経営者等との連携を推進します。 ◇講演会等の実施回数 (R1) 2回 → (R6) 2回	2回	2回	2回	2回	2回
◆課題解決能力を身に付け、多様化する経済社会に自ら進んで取り組む態度を養う教育を推進します。 ◇課題研究を通じた自己効力感の獲得率 (R1) 70% → (R6) 90%	70%	75%	80%	85%	90%
【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組 ◆SDGsを理解し、貢献する知識や態度を備えた人材を育成するために、ESDを推進します。 ◇SDGsに関する講座実施回数 (R1) 1回 → (R6) 1回	1回	1回	1回	1回	1回
◆将来職業人として必要な資質や能力を養うため、地域と連携したキャリア教育の更なる充実を図ります。 ◇地域連携型キャリア教育プログラムの実施満足度 (R1) 80% → (R6) 100%	80%	85%	90%	95%	100%
【方策4】商業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組 ◆企業や行政等と連携し、イベントの共同企画・運営を実践することで商業教育の魅力を発信する教育を推進します。 ◇徳島ヴォルティスのホームゲームプロデュースイベント(スタジアム学園祭)への参加回数 (R1) 1回 → (R6) 1回	1回	1回	1回	1回	1回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
<p>◆中学生や保護者等に対して商業科の学習や取り組みについての理解・関心を高め、進路選択につなげるための情報を発信する機会づくりを推進します。</p> <p>◇ホームページやSNSを活用した商業科に関する活動の情報発信回数 (R1) 12回 → (R6) 17回</p>	13回	14回	15回	16回	17回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
小松島西高校勝浦校 【農業科】					
【方策1】地方創生に資する人材の育成 に対応した取組					
◆将来の地域農業や農業関連産業の担い手を育成するため、社会の中で活用できる専門的な知識・技術を身に付けるとともに、農業、農業関連産業への理解を深める教育を推進します。 ◇農業及び農業関連企業・法人・大学等への就職・進学率 (R1) 15% → (R6) 30%	20%	25%	30%	30%	30%
◆地域や産業界と連携した6次産業化教育や起業家教育を推進します。 ◇地域の農産物を利用した加工品等の開発・製造数(累計) (R1) 1件 → (R6) 5件	1件	2件	3件	4件	5件
【方策2】先端技術に触れる教育の推進 に対応した取組					
◆インターンシップや就業体験を通して、専門性の向上やキャリア教育を推進します。 ◇「勝浦塾」等における先進農家や企業・事業所等での就業体験の実施件数 (R1) 1件 → (R6) 6件	2件	3件	4件	5件	6件
◆各種資格取得を推奨し、高い専門性を持ったスペシャリストの育成を図る教育を推進します。 ◇刈払機取扱作業安全衛生教育の修了者割合 (R1) 87.7% → (R6) 100%	100%	100%	100%	100%	100%
◇取得・合格に向けた補習を実施する資格・検定数 (R1) 7種類 → (R6) 10種類	7種類	8種類	9種類	10種類	10種類
【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組					
◆持続可能な生産、及び環境、人、社会、地域に配慮した「エシカル消費」教育を推進します。 ◇「エシカル消費」の推進や「GAP、HACCP」に関する教育の実践件数 (R1) 3件 → (R6) 8件	4件	5件	6件	7件	8件
◆伝統文化の継承、絶滅危惧種の保護活動など郷土の文化を次世代につなげる教育を推進します。 ◇人形浄瑠璃の校外での公演件数 (R1) 7件 → (R6) 12件	8件	9件	10件	11件	12件
◇ジンリョウユリ等の絶滅危惧種や希少植物の保護・保全活動及び上勝町棚田の保全活動の実施件数 (R1) 5件 → (R6) 7件	5件	6件	6件	7件	7件

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
【方策4】農林水産業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組 ◆中学生、保護者等に対する農業の学習についての理解・関心を高め、中学生の進路選択につなげるため、体験活動や地域交流を推進します。 ◇収穫祭における来場者数 (R1) 300人 → (R6) 400人 ◇地域の小・中学校、特別支援学校等との交流件数 (R1) 10件 → (R6) 15件 ◇地元病院、老人施設等との交流件数 (R1) 11件 → (R6) 15件 ◆ICTを活用し、ホームページ等での情報発信の充実を図ります。 ◇ホームページの更新回数 (R1) 78回 → (R6) 100回					
	320人	340人	360人	380人	400人
	11件	12件	13件	14件	15件
	11件	12件	13件	14件	15件
	80回	85回	90回	95回	100回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
富岡東高校 【商業科】					
【方策1】地域に根ざしたビジネス教育の推進 に対応した取組					
◆地域、企業、行政機関等との連携による教育を通して、商業の分野に興味・関心をもち、将来、地域産業の発展に貢献し、担い手となる人材の育成を推進します。					
◇2年次 インターンシップ実施率 (R1) 100% → (R6) 100%	100%	100%	100%	100%	100%
◇ビジネスアイデアコンテストの連携企業との協働活動の実施 (R1) 推進 → (R6) 推進	推進				→
◇阿南商工会議所主催販売活動への参加回数 (R1) 1回 → (R6) 3回	2回	2回	3回	3回	3回
【方策2】先端技術を活用した教育の推進 に対応した取組					
◆商業に関する先端技術やビッグデータを活用している企業や大学等との連携により、企業活動の進展を理解させることで、商業分野の学習の充実を図ります。					
◇先端技術を導入している地元企業での学習回数 (R1) - → (R6) 2回	2回	2回	2回	2回	2回
◆教職員が知識・技術の進展に対応し、専門性を高めるとともに新しい指導方法を身に付けられるよう研修の機会等の充実を推進します。					
◇教育委員会や全国商業教育協会主催の各種研修会への参加 (R1) 推進 → (R6) 推進	推進				→
◇ICT活用授業を中心とした相互授業参観の実施回数 (R1) 4回 → (R6) 4回	4回	4回	4回	4回	4回
【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組					
◆SDGsの理念に通じる取組に関する教育を進めることで、持続可能な社会づくりの担い手を育成します。					
◇SDGsに関する講演会の実施回数 (R1) 3回 → (R6) 3回	3回	3回	3回	3回	3回
◇SDGsの内容を取り入れた授業実践 (R1) 推進 → (R6) 推進	推進				→

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
◆商業の関連科目の学びを通して、地域社会の持続的な発展を担う人材育成につながる教育を推進します。					
◇外部講師による講習会（就職ガイダンス、ビジネスマナー講習会、年金教室、税務教室）の実施回数 （R1）4回 → （R6）4回	4回	4回	4回	4回	4回
◇卒業生のお話を聞く会の実施回数 （R1）1回 → （R6）1回	1回	1回	1回	1回	1回
◇全国商業高等学校協会主催検定1級三種目以上取得率 （3年卒業時） （R1）15% → （R6）30%	20%	20%	30%	30%	30%
◇日本商工会議所主催簿記検定2級取得率（合格数／受験者数） （R1）25% → （R6）25%	25%	25%	25%	25%	25%
◇1・2年次における専門学校主催高等学校簿記対抗戦参加率 （R1）100% → （R6）100%	100%	100%	100%	100%	100%
【方策4】商業に関する教育の効果的な魅力発信					
に対応した取組					
◆中学生や保護者等に商業の学びについての理解を深めてもらい、中学生の進路選択へつなげるため、地域に開かれた学校づくりを推進します。					
◇中学生体験学習時の商業系授業参加者の満足度 （アンケート実施） （R1）89% → （R6）100%	90%	90%	95%	95%	100%
◇商業科活動内容の学校ホームページへの掲載 （R1）推進 → （R6）推進	推進				→

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
阿南光高校 【工業科】					
【方策1】地域課題の解決に挑戦 に対応した取組					
◆人口流出や少子化による後継者不足解決に向け、地元の良さをPRし、地域産業の担い手を育成します。					
◇企業等との連携による、地元の良さや地元企業の技術の高さを学ぶための出前授業等の実施回数 (R1) - → (R6) 3回	1回	2回	2回	3回	3回
◇就職希望者における地元企業への希望者比率 (R1) 73% → (R6) 80%	75%	75%	78%	78%	80%
◆地場特産物を生かした商品作りに、工業の知識・技術で貢献します。					
◇商品作りに必要な器具の製作件数 (R1) - → (R6) 1件	1件	1件	1件	1件	1件
【方策2】先端技術に触れる教育の推進 に対応した取組					
◆先端技術を有する企業や大学等との連携により先端技術教育を推進します。					
◇大学・公的機関・企業と連携した講演、特別授業の回数 (R1) 1回 → (R6) 3回	1回	2回	2回	3回	3回
◇ドローンやロボット等を活用した先端技術・技能の習得を 目指した体験的な取組の実施回数 (R1) 1回 → (R6) 3回	2回	3回	3回	3回	3回
【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組					
◆工業分野の知識・技術の学習を通して、持続可能な社会づくりを推進します。					
◇クリーンエネルギーに関する授業や取組の実施件数 (R1) 1件 → (R6) 2件	1件	2件	2件	2件	2件
◇企業でのゼロエミッションに関する授業や取組の実施回数 (R1) - → (R6) 1回	1回	1回	1回	1回	1回
◇工業系の資格・検定の受験率 (延べ受験者数/全工業科生徒数) (R1) - → (R6) 1.8倍	1.6倍	1.7倍	1.7倍	1.8倍	1.8倍
【方策4】工業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組					
◆中学生の工業に対する興味関心を喚起します。					
◇地元の中学生対象の出前授業、体験授業の実施回数 (R1) 1回 → (R6) 3回	1回	2回	2回	3回	3回
◆工業科の取組をホームページで発信し、地域・保護者に開かれた学校づくりを推進します。					
◇学校ホームページの工業科の更新回数 (R1) 10回 → (R6) 20回	20回	20回	20回	20回	20回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
阿南光高校 【産業創造科】（農業に関する教育）					
【方策1】 地方創生に資する人材の育成 に対応した取組					
◆本県の基幹産業である「農業」の担い手を育成するため、専門的な知識と技術を身に付けるとともに、将来の農業・農業関連産業のあるべき姿を創造できる教育を推進します。					
◇県内の農業・農業関連産業への就職者数 (R1) 5名 → (R6) 7名	5名	6名	6名	7名	7名
◇四年制大学の農学系や農業大学校等への進学者数 (R1) 5名 → (R6) 7名	5名	6名	6名	7名	7名
◆JA等の地域産業と連携し「商品開発」を行い地方創生に資する取組を推進します。					
◇地域資源を活かした6次産業化商品の開発数（累計） (R1) 1件 → (R6) 3件	2件	2件	2件	3件	3件
【方策2】 先端技術に触れる教育の推進 に対応した取組					
◆本校に新設したハイテク施設の「植物工場ラボ」の活用やJA等に導入しはじめたスマート農業を推進します。					
◇「植物工場ラボ」を活用した植物の種類数（累計） (R1) 3件 → (R6) 6件	4件	4件	5件	5件	6件
◇スマート農業実践先での視察研修・体験件数 (R1) - → (R6) 2件	1件	1件	1件	2件	2件
◆県、徳島大学、県教委の協定に基づき、徳島大学との高大連携教育を推進します。					
◇高大連携教育における講座数 (R1) - → (R6) 4講座	2講座	2講座	3講座	3講座	4講座
【方策3】 持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組					
◆持続可能な「農業・農業関連産業」をめざすため、環境保全型農業を推進します。					
◇「SDGsの17の目標」において重点的に取り組んだ目標の件数（累計） (R1) 4件 → (R6) 9件	5件	6件	7件	8件	9件
◇未利活用資源の有効利活用に向けた取組件数（累計） (R1) - → (R6) 2件	1件	1件	2件	2件	2件

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
<p>【方策4】農林水産業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組</p> <p>◆中学生、保護者や地域住民等に対して、体験や広報を通して農業教育の魅力を発信します。</p> <p>◇「ハイテク講座」「学校開放講座」の受講者数（延べ人数） (R1) 68名 → (R6) 80名</p> <p>◇新聞・テレビジョンによる報道件数 (R1) 4件 → (R6) 6件</p>	70名	75名	75名	80名	80名
	4件	5件	5件	6件	6件

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
阿南光高校 【産業創造科】(商業に関する教育)					
【方策1】地域に根ざしたビジネス教育の推進 に対応した取組					
◆地域、企業、行政機関等との連携による教育を通して、商業の分野に興味・関心を持ち、将来産業地域の発展に貢献する人材の育成を推進します。					
◇ビジネスアイデアの創造・発案件数 (R1) - → (R6) 3件	1件	1件	2件	2件	3件
◇新野キャンパス等を利用した地域イベントの販売活動 プロデュース回数 (R1) - → (R6) 1回	計画	1回	1回	1回	1回
【方策2】先端技術を活用した教育の推進 に対応した取組					
◆商業に関する先端技術を活用している企業や大学等との連携により、企業活動の進展を理解させることで、商業分野の学習の充実を図ります。					
◇商業に関する先端技術を持つ大学との連携実施回数 (R1) - → (R6) 3回	1回	1回	2回	2回	3回
◇外部講師による起業セミナーの実施回数 (R1) - → (R6) 3回	1回	1回	2回	2回	3回
【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組					
◆商業の関連科目の学びを通して、地域社会の持続的な発展を担う人材育成につながる教育を推進します。					
◇地元企業を知るインターンシップの受入企業数 (R1) - → (R6) 30社	計画	5社	10社	20社	30社
◇地元企業を知るインターンシップへの生徒参加率 (参加者/系選択者) (R1) - → (R6) 50%	計画	10%	15%	30%	50%
◇ビジネスに関する高度な資格の受験率(受験者/系選択者) (R1) - → (R6) 50%	10%	20%	30%	40%	50%
【方策4】商業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組					
◆中学生や保護者等に総合学科での商業系の学びについて理解を深めてもらい、中学生の進路選択へとつなげるため、地域に開かれた学校づくりを推進します。					
◇体験入学等での情報ビジネス系の特色ある授業展開における受講者等満足度(アンケート)(高評価者/アンケート提出者) (R1) - → (R6) 100%	70%	80%	90%	100%	100%

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
那賀高校 【農業科】					
【方策1】 地方創生に資する人材の育成 に対応した取組					
◆地元林業事業体への見学研修や外部講師を有効に活用して、林業や関連産業に従事する意欲や関心を早期から醸成し、那賀町をはじめとする地域の林業従事者育成を目指した取組を推進します。					
◇林業事業体や関連産業等・農業大学校や林業アカデミー等への就職と進学（4年制大学を含む）の合計割合 （R1）67% → （R6）70%	70%	70%	70%	70%	70%
◇大学（林業・農業系）への進学者数（農業大学校を除く） （R1）2名 → （R6）2名	2名	2名	2名	2名	2名
◆林業に関する資格取得を積極的に行い、林業振興を通じて地方創生に取り組む人材の育成を推進します。					
◇林業・農業に関する資格取得数（卒業時一人あたり平均） （R1）9種類 → （R6）10種類	9種類	9種類	9種類	10種類	10種類
◇資格取得に関わる外部人材を活用した講座実施回数 （R1）9回 → （R6）10回	9回	9回	9回	10回	10回
◆森林や林業に関する県内外の先進地視察や海外研修を実施し、幅広い視点を持ち林業振興に取り組む人材の育成を推進します。					
◇森林・林業に係る県内外及び海外の視察・研修実施回数 （R1）5回 → （R6）5回	5回	5回	5回	5回	5回
【方策2】 先端技術に触れる教育の推進 に対応した取組					
◆林業技術の高度化に対応するため、林業事業体や関連産業へのインターンシップの実施や、高性能大型林業機械や産業用ドローンの操縦・活用技術を身に付けるための学習を推進します。					
◇林業関連産業へのインターンシップ実施率 （R1）100% → （R6）100%	100%	100%	100%	100%	100%
◇林業・農業に関する資格取得数（卒業時一人あたり平均） （再掲） （R1）9種類 → （R6）10種類	9種類	9種類	9種類	10種類	10種類
◇資格取得に関わる外部人材を活用した講座実施回数（再掲） （R1）9回 → （R6）10回	9回	9回	9回	10回	10回
◇高性能大型林業機械講習の実施回数 （R1）5回 → （R6）7回	5回	5回	6回	6回	7回
◇産業用ドローン講習の実施回数 （R1）3回 → （R6）3回	3回	3回	3回	3回	3回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
◆徳島大学生物資源産業学部の学問的インターンシップに参加し、大学の講義を受講するとともに、早期から大学進学意欲の醸成を推進します。また、関係機関との連携を図り、林業に関する実践的な知識・技能の深化を推進します。 ◇学問的インターンシップ等への参加者数 (R1) 3名 → (R6) 3名	3名	3名	3名	3名	3名
◇徳島森林管理署や南部総合県民局等の公的機関や民間企業から講師を招聘した出前授業の実施回数 (R1) 10回 → (R6) 10回	10回	10回	10回	10回	10回
【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組					
◆フォレストキャンパス那賀をはじめとする山林管理における計画的な伐採や植林を通して、持続可能な林業教育を推進します。 ◇フォレストキャンパス那賀における実習回数 (R1) 15回 → (R6) 20回	16回	16回	18回	18回	20回
◇フォレストキャンパス那賀における新規植林木数(累計) (R1) 100本 → (R6) 500本	100本	200本	300本	400本	500本
◆木材を有効に利用した新商品開発や6次産業化学習を推進します。 ◇端材や再生木材(中質繊維板)を用いた新商品の開発個数(累計) (R1) 10個 → (R6) 18個	10個	12個	14個	16個	18個
【方策4】農林水産業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組					
◆地元小・中学校との交流を通して、本校が所有する林業関連の施設・設備を有効に活用して、林業教育に関する興味・関心の高める取組を推進します。また、イベント参加や販売実習を通じて、本校の取組に関する広報を推進します。 ◇地元小・中学校との交流回数 (R1) 3回 → (R6) 5回	3回	3回	4回	4回	5回
◇校外のイベント参加や販売実習の実施回数 (R1) 5回 → (R6) 7回	5回	5回	6回	6回	7回
◆中学生及び保護者を対象とした地域学校説明会を開催し、林業学習への理解を促し、進学意欲の醸成を推進します。また、森林クリエイト科PR動画コンテンツの貸し出しや放映などによって、学習内容を多くの方に知ってもらう取組を推進します。 ◇中学生及び保護者を対象とした地域学校説明会の開催回数 (R1) 8回 → (R6) 8回	8回	8回	8回	8回	8回
◇校外における森林クリエイト科PR動画コンテンツの放映場所数 (R1) - → (R6) 5カ所	1カ所	2カ所	3カ所	4カ所	5カ所

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
海部高校 【商業科】					
【方策1】 地域に根ざしたビジネス教育の推進 に対応した取組 ◆地域、企業、行政機関等との連携による教育を通して、商業の分野に興味・関心を持ち、将来、地域産業の発展に貢献し、担い手となる人材の育成を推進します。 ◇2年次インターンシップ実施率 (R1) 100% → (R6) 100%	100%	100%	100%	100%	100%
◆世界の文化・商慣習の多様性を尊重し、グローバルなビジネス人材の育成を推進します。 ◇海外短期留学の推進 (R1) 推進 → (R6) 推進	推進				→
【方策2】 先端技術を活用した教育の推進 に対応した取組 ◆経営資源のマネジメントを行う能力と新たな物事にチャレンジする起業家精神の育成を推進します。 ◇次世代経営者育成プログラムに関わる外部講師の人数 (R1) 6人 → (R6) 8人	7人	7人	8人	8人	8人
◆商業に関する先端技術を活用している企業等との連携により、企業活動の進展を理解させることで、商業分野の学習の充実を図ります。 ◇先端技術を導入している地元企業での学習回数 (R1) ー → (R6) 3回	2回	2回	3回	3回	3回
【方策3】 持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組 ◆商業の関連科目の学びを通して、地域社会の持続的な発展を担う人材育成につながる教育を推進します。 ◇全国商業高等学校協会主催検定1級三種目以上取得率 (3年卒業時) (R1) 19% → (R6) 30%	20%	25%	25%	30%	30%
◆SDGsに貢献するための知識、技能、価値観、態度を備えた担い手を育成する教育を推進します。 ◇SDGsに関する講座実施回数 (R1) 2回 → (R6) 3回	3回	3回	3回	3回	3回
【方策4】 商業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組 ◆中学生や保護者等に対する商業の学習についての理解を深めてもらい、中学生の進路選択へとつなげるため、地域に開かれた学校づくりを推進します。 ◇中学生体験入学時の授業参加者の満足度(アンケート実施) (R1) ー → (R6) 100%	90%	90%	95%	95%	100%
◇在校生の授業満足度(授業評価アンケート実施) (R1) 94% → (R6) 100%	98%	98%	98%	100%	100%

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
鳴門渦潮高校 【総合学科】（工業に関する教育） 【方策1】地域課題の解決に挑戦 に対応した取組 ◆地域、企業、行政機関等との連携による教育を通して、工業の分野に興味・関心をもち、将来、地域の工業の発展に貢献し、担い手となる人材の育成を推進します。 ◇2年次インターンシップ参加率 (R1) 100% → (R6) 100%	100%	100%	100%	100%	100%
【方策2】先端技術に触れる教育の推進 に対応した取組 ◆工業関連の先端技術を導入している企業や大学等との連携により、工業技術の進展を理解させることで、工業分野の学習の充実を図ります。 ◇先端技術を導入している大学等専門機関または企業の研究・事業担当者による講義・実習の実施回数 (R1) - → (R6) 1回	1回	1回	1回	1回	1回
【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組 ◆工業の生産システムに関する知識・技術の学びを通して、地域社会の持続的な発展を担う人材育成につながる教育を推進します。 ◇工業系検定受検回数（情報通信系列生徒年間一人当） (R1) 1回 → (R6) 1回 ◇工業系資格受験回数（情報通信系列生徒年間一人当） (R1) 1回 → (R6) 1回	1回	1回	1回	1回	1回
【方策4】工業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組 ◆中学生や保護者等に総合学科での工業系の学びについての理解を深めてもらい、中学生の進路選択へとつなげるため、地域に開かれた学校づくりを推進します。 ◇オープンスクール時の体験授業参加者の満足度（アンケート実施） (R1) 95% → (R6) 95%以上	95%以上	95%以上	95%以上	95%以上	95%以上

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
鳴門渦潮高校 【総合学科】(商業に関する教育) 【方策1】地域に根ざしたビジネス教育の推進 に対応した取組 ◆地域、企業、行政機関等との連携による教育を通して、商業の分野に興味・関心をもち、将来、地域産業の発展に貢献し、担い手となる人材の育成を推進します。 ◇2年次インターンシップ参加率 (R1) 100% → (R6) 100%	100%	100%	100%	100%	100%
【方策2】先端技術を活用した教育の推進 に対応した取組 ◆商業に関する先端技術やビッグデータを活用している企業や大学等との連携により、企業活動の進展を理解させることで、商業分野の学習の充実を図ります。 ◇先端技術を導入している大学等専門機関または企業の研究・事業担当者による講義・実習の実施回数 (R1) - → (R6) 1回	1回	1回	1回	1回	1回
【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組 ◆商業の関連科目の学びを通して、地域社会の持続的な発展を担う人材育成につながる教育を推進します。 ◇全国商業高等学校協会主催簿記検定受検率 (総合ビジネス系列生徒) (R1) 100% → (R6) 100%	100%	100%	100%	100%	100%
【方策4】商業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組 ◆中学生や保護者等に総合学科での商業系の学びについての理解を深めてもらい、中学生の進路選択へとつなげるため、地域に開かれた学校づくりを推進します。 ◇オープンスクール時の体験授業参加者の満足度 (アンケート実施) (R1) 95% → (R6) 95%以上	95% 以上	95% 以上	95% 以上	95% 以上	95% 以上

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
吉野川高校 【農業科】					
【方策1】 地方創生に資する人材の育成 に対応した取組					
◆地域での農産物の販路を拡大します。					
◇産直市やイベントの参加回数 (R1) 8回 → (R6) 8回以上	8回 以上	8回 以上	8回 以上	8回 以上	8回 以上
◇校内農産物販売所アグリ吉野川の年間販売日数 (R1) 15日 → (R6) 17日	15日	15日	16日	16日	17日
◇地域の学校給食への食材提供(野菜・果樹)回数 (R1) 2回 → (R6) 3回以上	2回 以上	2回 以上	2回 以上	3回 以上	3回 以上
◆本校商業科との連携で「吉高ブランド」の普及を目指します。					
◇6次産業化・エシカル消費に関する教育の推進 (R1) 準備 → (R6) 推進	推進 →				
◇「鴨島駅前にぎわいづくり」活動実施回数 (R1) 3回 → (R6) 5回	3回	3回	4回	4回	5回
◆地元の福祉施設と交流学习を行います。					
◇園芸専攻の生徒による地域資源を活用した出前授業実施回数 (累計) (R1) - → (R6) 6回	2回	3回	4回	5回	6回
◆地元企業・団体等との環境美化活動に取り組みます。					
◇地域連携による鴨島駅前花壇等の整備活動実施回数 (R1) 2回 → (R6) 4回	2回	2回	3回	3回	4回
◆生徒・保護者の学校満足度(学校全体)の向上に努めます。					
◇生徒・保護者満足度(アンケート調査) (R1) 80.5% → (R6) 90%以上	82% 以上	84% 以上	86% 以上	88% 以上	90% 以上
◆大学や関係機関等との連携を積極的に行います。					
◇「食品製造」(徳島文理大学・徳島大学・徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校)及び「生物活用II」(四国大学)における出張授業や調査研究の実施回数 (R1) 2回 → (R6) 4回	2回	2回	3回	3回	4回
◇徳島県立工業技術センターでの成分分析技術研修の実施回数 (R1) - → (R6) 2回	1回	1回	1回	1回	2回
◆日本学校農業クラブ活性化に向けた取組を推進します。					
◇各科目でのプロジェクト学習の推進 (R1) 準備 → (R6) 推進	推進 →				
◆次世代農業の担い手を育成します。					
◇農業関係(自営・法人等)への就職率 (R1) 20% → (R6) 30%	20%	23%	25%	28%	30%
◇農業関係(専門学校・大学等)への進学率 (R1) 5% → (R6) 10%	5%	5%	8%	8%	10%

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
【方策2】先端技術に触れる教育の推進 に対応した取組 ◆篤農家・企業での就業体験や講演会へ積極的に参加します。 ◇2年生を対象にしたインターンシップ事業の実施回数(累計) (R1) 1回 → (R6) 5回 ◇高度熟練技術者による講演会への参加回数(野菜) (R1) 1回 → (R6) 2回 ◆最新品種の栽培管理や高度な技術の習得を推進します。 ◇栽培樹木の更新(果樹) (R1) 準備 → (R6) 推進 ◇栽培技術の習得(園芸) (R1) 準備 → (R6) 推進 ◆農業のユニバーサルデザイン化を推進します。 ◇ICT活用によるスマート農業の推進 (R1) 準備 → (R6) 推進 ◆専門知識と高度専門資格の取得を推進します。 ◇日本農業技術検定3級合格率 (R1) 84.2% → (R6) 89% ◇室内園芸装飾技能士3級合格率 (R1) 90% → (R6) 100% ◇フラワー装飾技能士3級合格率 (R1) 87.5% → (R6) 100%	1回	2回	3回	4回	5回
	1回	1回	1回	2回	2回
	推進				→
	推進				→
	推進				→
	85%	86%	87%	88%	89%
	90%	90%	90%	100%	100%
	90%	90%	90%	100%	100%
【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組 ◆食の安全・安心に関する教育を推進します。 ◇とくしま安 ² GAP認証を踏まえたJGAP認証の取得 (R1) 推進 → (R6) 取得 ◆高品質な農産物を持続的に供給できる優れた圃場を目指します。 ◇農場収入額 (R1) 1,035万円 → (R6) 1,200万円 ◆地域伝統技術の伝承と後継者の育成を推進します。 ◇養蚕・藍染め・菊人形の伝承 (R1) 推進 → (R6) 推進 ◆農業教育の特性を生かした防災教育を推進します。 ◇田畑の活用と森林の多面的機能等に関する学習 (R1) 推進 → (R6) 推進	推進				→取得
	1,050万円	1,080万円	1,100万円	1,150万円	1,200万円
	推進				→
	推進				→

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
【方策4】農林水産業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組 ◆押し花アートや藍染め製品の普及活動に努めます。 ◇校外貸し出し展示場数 (R1) 2会場 → (R6) 5会場 ◇作品のコンクール出展による受賞者数(優秀賞以上) (R1) 2人 → (R6) 3人 ◆ホームページによる農業科の活動紹介を充実させます。 ◇生徒の活動情報の更新回数 (R1) 11回 → (R6) 35回 ◆地元小学校との交流学习で農業の楽しさをアピールします。 ◇園芸専攻の生徒による地域資源を活用した出前授業の実施回数 (R1) 1回 → (R6) 5回 ◇農業体験(冬野菜収穫・藍染め体験)の実施回数 (R1) 1回 → (R6) 5回 ◆学校開放講座による農業実践に取り組みます。 ◇学校開放講座(食品製造・押し花・藍染め)・体験入学・オープンスクールの実施回数 (R1) 5回 → (R6) 5回	2会場	3会場	3会場	4会場	5会場
	3人	3人	3人	3人	3人
	15回	20回	25回	30回	35回
	1回	2回	3回	4回	5回
	1回	2回	3回	4回	5回
	5回	5回	5回	5回	5回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
吉野川高校 【商業科】					
【方策1】地域に根ざしたビジネス教育の推進 に対応した取組					
◆地域・企業・行政機関等との連携による教育を通して、商業の分野に興味・関心を持ち、将来、地域産業の発展に貢献し、担い手となる人材を育成します。					
◇2年生を対象に地元企業と連携したインターンシップなどの実施率 (R1) - → (R6) 100%	10%	30%	50%	70%	100%
◇地元の魅力ある観光資源を知る、フィールドワークや調べ学習の学習成果発表会実施回数 (R1) - → (R6) 1回	1回	1回	1回	1回	1回
【方策2】先端技術を活用した教育の推進 に対応した取組					
◆商業に関する先端技術やビッグデータを活用している企業や大学等との連携により、企業活動の進展を理解させることで、商業分野の学習の充実を図ります。					
◇大学や研究機関等の外部人材の活用による高度な知識・技術の学習回数 (R1) - → (R6) 3回	3回	3回	3回	3回	3回
◇先端技術を導入している地元企業での学習回数 (R1) - → (R6) 2回	2回	2回	2回	2回	2回
【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組					
◆商業関連科目の学びを通して、地域社会の持続的な発展を担う人材育成につながる教育を推進します。					
◇勤労観・職業観を確かなものにする、エシカル消費を意識した「スクールカフェ吉野川」の運営回数 (R1) 10回 → (R6) 10回	10回	10回	10回	10回	10回
◇全国商業高等学校協会主催検定3級三種目以上取得率(3年卒業時) (R1) 74% → (R6) 80%	80%	80%	80%	80%	80%
◇全国商業高等学校協会主催検定1級三種目以上取得率(3年卒業時) (R1) 3% → (R6) 5%	5%	5%	5%	5%	5%
◇「総合実践」の授業におけるビジネスマナーに関する学習活動実施回数 (R1) 5回 → (R6) 10回	6回	7回	8回	9回	10回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
【方策4】商業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組 ◆中学生や保護者に商業科での学びについての理解を深めてもらい、中学生の進路選択へとつなげるため、地域に開かれた学校づくりを推進します。 ◇吉野川高校通信の周辺中学校・在校生保護者等への配布回数 (R1) 1回 → (R6) 2回 ◇中学生体験学習時の商業科授業の満足度(アンケート実施) (R1) - → (R6) 100% ◇商業科の活動のホームページでの発信回数 (R1) 7回 → (R6) 20回 ◇農業科との協働による「鴨島駅前にぎわいづくり」活動実施回数 (R1) 3回 → (R6) 5回	2回	2回	2回	2回	2回
	100%	100%	100%	100%	100%
	20回	20回	20回	20回	20回
	3回	3回	4回	4回	5回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
つるぎ高校 【工業科】 【方策1】地域課題の解決に挑戦 に対応した取組 ◆地域、企業との連携による教育を通して、工業の分野に興味関心を持ち、将来地域の発展に貢献し、担い手となる人材を育成します。 ◇6次産業化への取組 (R1) 推進 → (R6) 推進 ◇徳島県県土整備部住宅課及び徳島県建築士事務所協会による出前授業の実施 (R1) - → (R6) 実施 ◇地元企業への短期インターンシップの参加率 (R1) 40% → (R6) 50%	推進				
	実施	実施	実施	実施	実施
	42%	44%	46%	48%	50%
【方策2】先端技術に触れる教育の推進 に対応した取組 ◆工業関連の先端技術に触れ、工業技術の進展を理解させることで、工業分野の学習の充実を図ります。 ◇建築3DCAD講習の実施 (R1) - → (R6) 実施 ◆新しく導入された工作機械を使ったFA実習の充実を図ります。 ◇3DCADや3Dプリンター、MC工作機械を用いた製作実習 (R1) - → (R6) 実施	実施	実施	実施	実施	実施
	実施	実施	実施	実施	実施
【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組 ◆地域社会の持続的な発展を担う人材育成につながる教育を推進します。 ◇地域と連携した工場、発電所、建設工事現場等の見学会実施回数 (R1) 各科1回 → (R6) 各科1回以上 ◆国家資格合格率向上への取組を推進します。 ◇国家資格合格率向上のための指導者研修(外部研修)への参加回数 (R1) - → (R6) 1回 ◇第3種電気主任技術者試験の合格者数 (R1) 2名 → (R6) 1名以上 ◇ジュニアマイスター認定生徒数 (R1) ※ 名 → (R6) 40名以上	各科 1回 以上	各科 1回 以上	各科 1回 以上	各科 1回 以上	各科 1回 以上
	1回	1回	1回	1回	1回
	1名	1名	1名	1名	1名
	以上	以上	以上	以上	以上
	40名	40名	40名	40名	40名
				以上	以上

※確定次第記載します。

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
<p>【方策4】工業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組</p> <p>◆地域で開催される大会，展示会，発表会等に積極的に参加することで本校の取組を発信します。</p> <p>◇徳島県建築士会美馬地域会主催「将来住みたい家」に出品 (R1) コース全員出品 → (R6) コース全員出品</p> <p>◆中学生や保護者等に工業科での学びについて理解を深めてもらい，中学生の進路選択へとつなげるため，地域に開かれた学校づくりを推進します。</p> <p>◇工業科の取組の本校HPでの配信回数 (R1) 2回 → (R6) 20回</p>	全員出品	全員出品	全員出品	全員出品	全員出品
	5回	10回	15回	18回	20回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
つるぎ高校 【商業科】					
【方策1】 地域に根ざしたビジネス教育の推進 に対応した取組					
◆地域・企業・行政機関等との連携による教育を通して、商業の分野に興味関心を持ち、将来、地域産業の発展に貢献し、担い手となる人材を育成します。					
◇みまから唐辛子など地域資源を活用した商品やサービス等の開発及び提案件数 (R1) 1件 → (R6) 5件 (累計)	1件	2件	3件	4件	5件
◇2年次インターンシップ参加率 (R1) 20% → (R6) 25%	20%	20%	23%	23%	25%
◆関係機関等との多様な連携による地域の特性を活かした実践的な教育を推進します。					
◇地域の伝統や文化の継承及び地域資源を活用したビジネス化を目指した体験的・実践的学習や地域との交流活動の回数 (R1) 1回 → (R6) 3回	2回	2回	2回	3回	3回
◇新たな地域資源の発掘及び世界農業遺産等の情報発信回数 (R1) 1回 → (R6) 3回	2回	2回	2回	3回	3回
【方策2】 先端技術を活用した教育の推進 に対応した取組					
◆ICT等の先端技術を活用している企業や大学等との連携により、企業活動の進展を理解させることで、商業分野の学習の充実を図ります。					
◇企業見学や体験学習、企業・大学等での学習回数 (R1) 1回 → (R6) 2回	2回	2回	2回	2回	2回
◇外部講師招聘等による高度な知識等に関する講習会実施回数 (R1) 1回 → (R6) 2回	2回	2回	2回	2回	2回
◆先端技術を活用した新たな商業教育の取組を推進します。					
◇電子黒板・タブレット・スマートフォン等を活用した専門分野の学習 (R1) - → (R6) 推進	推進				→
【方策3】 持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組					
◆商業の専門科目の学びを通して、地域社会の持続的な発展を担う人材育成につながる教育を推進します。					
◇地域と連携した特色ある活動を実践し、新たなビジネスアイデアを創造する学習回数 (累計) (R1) 1回 → (R6) 5回	1回	2回	3回	4回	5回
◇地域の課題解決に向けた調査・研究の発表回数 (R1) 1回 → (R6) 2回	2回	2回	2回	2回	2回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
◆資格取得や実践的な教育によるキャリアアップを図り、ビジネスの様々な場面で役立つ知識・技術を身につけ、確かな学力を育成します。					
◇全国商業高等学校協会主催検定1級三種目以上取得率 (3年卒業時) (R1) 15% → (R6) 20%	15%	15%	17%	17%	20%
◇商業分野の各種競技会における四国大会以上の大会出場件数 (R1) 3件 → (R6) 3件	3件	3件	3件	3件	3件
【方策4】商業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組					
◆商業の学び中で、ビジネスアイデア等の研究発表や商品開発、販売実習等の取組の情報をあらゆる方法で発信します。					
◇各種メディア等での情報発信回数 (R1) 3回 → (R6) 3回	3回	3回	3回	3回	3回
◇校外での学習成果の展示・発表回数 (R1) 2回 → (R6) 2回	2回	2回	2回	2回	2回
◆中学生や保護者等の商業の学習についての理解・関心を高め、中学生の進路選択へとつなげるため、地域に開かれた学校づくりを推進します。					
◇商業教育に関する活動の本校HPにおける発信回数 (R1) 2回 → (R6) 5回	5回	5回	5回	5回	5回
◇本校の教育活動のPR動画の上映や作品・活動パネルの展示回数 (R1) 2回 → (R6) 2回	2回	2回	2回	2回	2回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
池田高校辻校 【総合学科】（商業に関する教育）					
<p>【方策1】地域に根ざしたビジネス教育の推進 に対応した取組</p> <p>◆地域、企業、行政機関等との連携による教育を通して、商業の分野に興味・関心をもち、将来、地域産業の発展に貢献できる人材の育成を推進します。</p> <p>◇地域外部人材の活用による講演及びフィールドワーク実施回数 (R1) 3回 → (R6) 5回</p> <p>◇6次産業化をはじめ、地域活性化に向けた他学科との連携活動回数 (R1) 6回 → (R6) 8回</p>	5回	5回	5回	5回	5回
<p>【方策2】先端技術を活用した教育の推進 に対応した取組</p> <p>◆大学や行政機関等との連携を図り、多様で高度な学びの機会を持つことにより、商業分野の学習の充実を図ります。</p> <p>◇テレビ会議システムを利用した遠隔講座の実施回数 (R1) 1回 → (R6) 3回</p>	2回	2回	3回	3回	3回
<p>【方策3】持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組</p> <p>◆商業の関連科目の学びを通して、地域社会の持続的な発展を担う人材育成につながる教育を推進します。</p> <p>◇全国商業高等学校協会主催検定1～3級の合格率 (合格者数/受験者数) (R1) 77% → (R6) 80%</p>	80%	80%	80%	80%	80%
<p>【方策4】商業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組</p> <p>◆早期から商業系の学びについての理解を深めてもらい、将来の進路選択へつなげるため、地域に開かれた学校づくりを推進します。</p> <p>◇小学校、中学校での出前授業及び連携活動の実施回数 (R1) 1回 → (R6) 2回</p>	1回	2回	2回	2回	2回

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
池田高校三好校 【農業科】 【方策1】 地方創生に資する人材の育成 に対応した取組 ◆専門科目で習得した知識と技術を地域で活用し、主体的に地域の発展・活性化に貢献できる人材育成を推進します。 ◇地域の方を対象とした学校開放講座の開催回数 (R1) 5回 → (R6) 7回以上 ◆農業学習の深化を図るとともに、将来の地域を支える人間性豊かな職業人として必要な資質の習得を目指し、地域や企業等と連携した地域貢献活動を推進します。 ◇学習成果を地域で活かす取組実施回数 (R1) 45回 → (R6) 70回以上 【方策2】 先端技術に触れる教育の推進 に対応した取組 ◆農業教育の充実を図るため、大学等の研究機関や企業との連携活動を実践します。 ◇出前・出張授業の開催回数 (R1) 7回 → (R6) 12回 ◆職業体験活動を通して、専門性を向上させるとともに、職業観・勤労観を育み、キャリア教育を充実させます。 ◇就業体験やインターンシップへの参加人数 (R1) 30人 → (R6) 30人以上 ◇資格・検定取得人数 (R1) 50人 → (R6) 60人 【方策3】 持続可能な社会づくりへ向けた教育の推進 に対応した取組 ◆環境保全、地産地消、地域社会を考慮した専門教育を展開します。 ◇エシカル消費につながる授業研究の実施件数 (R1) 4件 → (R6) 9件 ◆植物培養などの専門的な技術力を生かし、地元地域の環境保護に努め、保護団体と協力した環境教育を推進します。 ◇黒沢湿原の絶滅危惧種サギソウの保護と増殖活動の実施 (R1) 推進 → (R6) 推進 ◆災害に強い森林づくりや防災に役立つ商品開発をなど専門教育の特質を生かした防災教育を推進します。 ◇農場生産物を使った防災関連商品の開発 (R1) 推進 → (R6) 推進	 5回 以上 50回 以上 8回 30人 以上 50人 5件 推進 推進	 5回 以上 55回 以上 9回 30人 以上 50人 6件 	 6回 以上 60回 以上 10回 以上 55人 7件 	 6回 以上 65回 以上 11回 以上 55人 8件 	 7回 以上 70回 以上 12回 以上 60人 9件 → →

学校名・◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
<p>【方策4】農林水産業に関する教育の効果的な魅力発信 に対応した取組</p> <p>◆本校の教育資産を活用した異校種間連携・交流活動に積極的に 取り組み、農林業教育への興味・関心を高めていきます。</p> <p>◇魅力ある農林業体験・交流活動の実施回数 (R1) 4回 → (R6) 9回</p> <p>◆学校ホームページに日々の専門教育内容を掲載し、専門教育の 魅力を随時発信します。</p> <p>◇ホームページの更新回数 (R1) 55回 → (R6) 80回</p>	5回	6回	7回	8回	9回
	60回	65回	70回	75回	80回

◆取組内容・◇数値目標	令和6年度までの工程				
	R2	R3	R4	R5	R6
6次産業化に対応した教育 ◆6次産業化を担う人材を育成するため、県立高校において、農工商連携による、徳島ならではの地域資源を生かした、生産・加工・販売が一体化した6次産業化教育を推進します。 ◇地域の企業等で販売される6次産業化商品の開発数（累計） （R1）－ → （R6）15品 ◆学校間連携・生徒間協働活動による6次産業化教育の取組を広め、中学生や保護者等へ農林水産業・工業・商業に関する教育の魅力を伝えるとともに、中学生の進路選択へとつなげるため、成果報告会を開催します。 ◇成果報告会の参加者数 （R1）166名 → （R6）250名以上	3品	6品	9品	12品	15品
	180%	200%	220%	240%	250%以上

用語解説

【目次】

5G（第5世代移動通信システム）

4Gを発展させた「超高速」だけでなく、「多数接続」、「超低遅延」といった新たな機能を持つ次世代の移動通信システム。

Society 5.0

狩猟社会，農耕社会，工業社会，情報社会に続く新たな経済社会のことで，サイバー空間とフィジカル空間（現実社会）が高度に融合した「超スマート社会」の実現により，経済発展と社会的課題の解決を両立する，人間中心の社会のこと。

SDGs（持続可能な開発目標）

Sustainable Development Goalsの略。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2016年から2030年までの国際社会共通の目標。持続可能な世界を実現するための17のゴールと169のターゲットから構成され，地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている。

【1ページ】

6次産業化

1次産業としての農林漁業と，2次産業としての製造業，3次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り，地域資源を活用して新たな価値を生み出すこと。

6次産業化教育

本県の強みである農林水産物の付加価値をさらに高めるとともに，新たな「とくしまブランド」を生み出す発想と産業を開拓する創造的実行力を育成するための教育のこと。

AI

Artificial Intelligenceの略で，人工知能を表す。人間が持っている認識や推論など能力をコンピュータでも可能にするための技術のこと。

ビッグデータ

文字通り「大規模なデータ」のことで，一般的なデータ量をはるかに超える大規模なデータを収集・蓄積・処理し，新たな価値を見いだすことが期待できる。教育現場では，子どもの学力データや学習履歴データなどを蓄積して多面的な分析を行うことにより，個々に最適な指導を見いだしたり，全体の学力向上へつなげたりすることができることと期待されている。

IoT

Internet of Thingsの略で，「モノのインターネット」と訳される。身の回りのあらゆるモノがインターネットにつながることで，より豊かで便利な生活をもたらすことが期待されている。

【7ページ】

エシカル消費

人や社会、環境に配慮した製品や商品・サービスを選んで消費すること。

GAP

Good Agricultural Practice（農業生産工程管理）の略。「食品安全」や「環境保全」、「労働安全」などに配慮しながら、農業生産活動の持続的な改善につなげていく農場管理の取組。

FFJ検定

FFJ（日本学校農業クラブ連盟）は、Future Farmers of Japanの略。農業学習や学校農業クラブ活動で培ってきた自分の力が、「科学性、社会性、指導性」という3大目標に対して、どの程度まで到達したかを確認するためのもの。

【8ページ】

キャリア教育

一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達（社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程）を促す教育。

【12ページ】

超スマート社会

必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細かに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らすことのできる社会のこと。

【16ページ】

プロジェクト学習

チームでプロジェクトのテーマを設定し、その実現に向けた解決策や具体的なプランの策定、実践等を通じた学習方法のこと。学習者がその問題を解決するために取り組む過程で、論理的思考力、問題発見能力、問題解決能力、表現力等を習得することを目指す学習方法のこと。

【17ページ】

H A C C P

食品の製造・加工において、原材料の受入れから最終製品の出荷までの全ての工程で発生するおそれのある微生物汚染等の危害をあらかじめ分析 (Hazard Analysis) し、その結果に基づいて、どの工程でどのような対策を講じれば安全な製品を得ることができるかという重要管理点 (Critical Control Point) を定め、これを継続的に監視することにより製品の安全を確保する衛生管理の手法。

【19ページ】

S T E A M教育

教科の枠を超えたさまざまな分野の知識を融合させ、課題を発見し、解決させることで新しい価値を創造する力をつけさせる教育のこと。

Socience:科学, Technology:技術, Engineering:工学, Arts:芸術, Mathematics:数学

徳島県農工商教育活性化・魅力化協議会委員名簿

(50音順・敬称略)

氏名	役職等
市岡 沙織	市岡製菓株式会社 代表取締役社長
岩 浅 良 治	徳島県産業教育振興会 副会長 一般財団法人徳島県建設業協会 副会長
岡 富士子	徳島県高等学校PTA連合会 副会長
勝 瀬 典 雄	関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科 兼任講師 6次産業化中央サポートセンター プランナー
儀 宝 修	徳島県教育委員会 教育次長
小 原 史 明	徳島県高等学校教育研究会 農業学会長
多 代 かえで	徳島県中学校長会 副会長
寺 内 カツコ	徳島県商工会議所連合会 会長 徳島商工会議所 会頭
西 裕 治	徳島県高等学校教育研究会 工業学会長
人 見 崇 之	西日本電信電話株式会社徳島支店 副支店長
伏 谷 茂	JA徳島中央会JA支援室 部長
森 本 泰 造	徳島県高等学校教育研究会 商業学会長
○ 横井川 久己男	徳島大学 生物資源産業学部長

○ 会長